

平成 28 年度 第 6 回（震災後 第 70 回）

陸前高田市保健医療福祉未来図会議

平成 28 年 9 月 16 日(金) 13:30～15:30

陸前高田市役所 4 号棟第 6 会議室

次 第

◆テーマ

「 通いの場づくり ～つながりを持ち続ける理由～② 」

1 あいさつ

陸前高田市 民生部長兼保健課長 菅野利尚

2 内容

（1）未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

（2）報告

報告 「はまかだスポット」のあるまち

民生部地域福祉課 課長補佐兼地域福祉係長兼社会福祉士 馬場勝基

報告 「横田に住んでいがった会議」から見えてきたもの

横田町民生児童委員協議会 及川昇氏

（3）グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒テーマ：みんなで「はまかだスポット」マップを作ってみよう

・市内 8 町ごとに自分がもしくはお互いに知っている「はまかだスポット」

を書いていきましょう・・・！

3 その他連絡・アナウンス

【事務局：陸前高田市民生部】

※次回（第 71 回）：平成 28 年 10 月 14 日（金）13：30～15：30

◆10 月メインテーマ（仮）： ※出張未来図会議

栃ヶ沢団地の「未来」についてはまってけらいん、かだってけらいん

◆会場：栃ヶ沢災害復興公営住宅 集会室

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉未来図会議（月1回）の予定

○日程と月別テーマ（予定）

H28年： **11/11（金）第72回**

（仮）子育て世代が必要としている支援、切れ目のない妊産婦・乳幼児への支援とは
～子ども・子育て世代への合理的配慮って？～

12/16（金）第73回

（仮）エンド・オブ・ライフケアと地域コミュニティ
～地域でその人らしく最期を迎えるために～

H29年： **1/20（金）第74回**

2/17（金）第75回

3/17（金）第76回



※検討中（第2回はまかだスポットマップ作成）

○会議の趣旨

住民の生活にかかわる関係者が集まり、住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現を目指し、震災のからの復興に向けた地域にとってよりよい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。

○大きな方向性

- ・ ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの推進
「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進
- ・ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践
- ・ 市民・他分野機関との協働、未来図（計画）策定
- ・ 居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

○陸前高田市保健医療福祉未来図会議メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

平成28年度 第6回 (震災後70回) 陸前高田市 保健医療福祉未来図会議

平成28年9月16日(金) 13:30~15:30
陸前高田市役所 4号棟 第6会議室

本日(H28.9/16)の会議の概要

◆テーマ

通いの場づくり

～つながりを持ち続ける理由～②

H28.7月、8月、9月(シリーズ開催)

…地域の「宝物(活動)」を継続して確認し、
これからの元気づくり、地域づくりにつながる
「はまかだスポット」マップの作成を試み、
みなさんとともに見える化を図ってみましょう。

前々回(H28.7/22)の会議の結果概要

◆テーマ

通いの場づくり

～つながりを持ち続ける理由～①

※平成28年度未来図会議年間テーマ

私から始める他人(ひと)ごと意識の解消

～ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実践～

…につながる地域の通いの場＝はまかだスポットを知ろう

前々回(H28.7/22)の会議の結果概要

◆「きょういく」ところ、「きょうよう」があるところ事例

活動事例③ 矢作町 男の通いの場

精米サロン(後方が精米機)

「精米所サロン」 ※ビデオ出演

- ・二又地区の精米所が、気がつけば精米サロンとなっていた
- ・昔からあり、ここに来れば地域のさまざまな情報が得られた
- ・定例活動日があるわけではなく、毎日、誰でも来てもよい
- ・「精米サロン」の看板も地域の誰かが設置していった
- ・普段着で気軽に集まれる男性にとっても大事な通いの場となっている(実際、男性が多く集っている)



前々回（H28.7/22）の会議の結果概要

◆グループディスカッションの声

グループディスカッション

⇒ テーマ:つながりを持ち続けている事例から学ぶこと

①すごいね！すばらしいね！なぜ続いているの？何が大事なの？ ②自分の地域にはないかな？

①すごいね！なぜ続いているの？

・楽しいこと、自然体であること、気を遣わない、先に立つ人の行動、歩いて行けること、特技を活かせること、義務感がないこと、こちよい人とのつながり、笑顔がある、面白い、できる範囲でやる

②自分の地域にはないかな？

・上浜田地区でのお茶っこ会、朝日のあたる家（米崎）、広田地区の俳句の会、小友のノルディック・ウォーキングの会、高田地区の農園活動、近所同士でお茶会を始めた人もいる、旧米崎中仮設住宅におけるボンジュールは移転先でも続くのでは…、会員制老人クラブ、社協のサロン、はまらっせん農園など

前回（H28.8/19）の会議の概要

◆テーマ

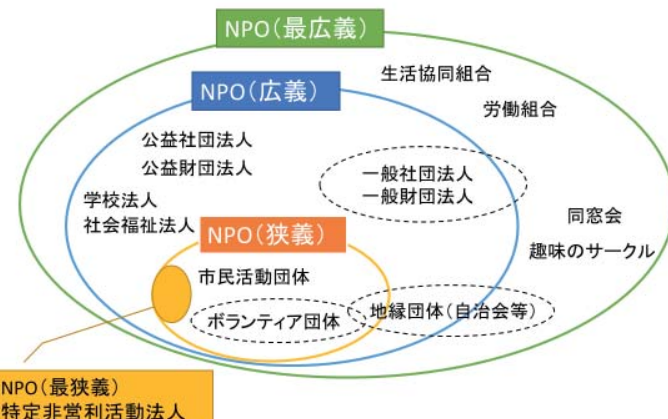
NPOのつよみを活かした地域づくり

H28.7月、8月、9月（シリーズ開催）

…日頃、通り過ぎて見過ごしていたかも知れない地域の「宝物（活動）」を継続して確認しながら、これからの元気づくりについて、それぞれでできることを仕掛け続けて行きましょう

前回（H28.8/19）の会議の結果概要

NPOって「誰」のこと？



前回（H28.8/19）の会議の結果概要

市内では震災前から比べると法人格のある NPO だけを数えても1団体から、約20団体まで活動団体が増え、町別に見ても多くの団体が活動を続けている。ただし、震災から時間が経つに連れて撤退している団体もあり（当初からの時限団体もある）、現在はコミュニティづくりに関する活動内容が多くなっている。

具体的な NPO 法人の紹介をしたい。①小友町の「陸前たがだ八起プロジェクト」、②震災前から高田町に活動拠点のある「きらりんきずく」、③全町を対象としている「陸前高田市復興支援連絡会」である。②以外は震災後の応急仮設住宅での活動から始まっているが、特徴は仮設住宅を出られた後も行き先々の状況にかかわらず、人と人をつなぎ続ける関わりを継続していることにある。②も震災前の人も現在の人もつなげる場を提供し続けており、行政のように根拠事業目的の縛り等でこぼれがちな部分を相互に補いながら誰にとっても暮らしやすい、まさしくノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりにつながる活動を続けている。今後も NPO のつよみ（現場の声に近い、専門・公益性の高さ、柔軟性、独自ネットワークなど）を活かしてつながってきたい。

NPOは地域の中にある課題に対し、よりよくしようという思いで活動

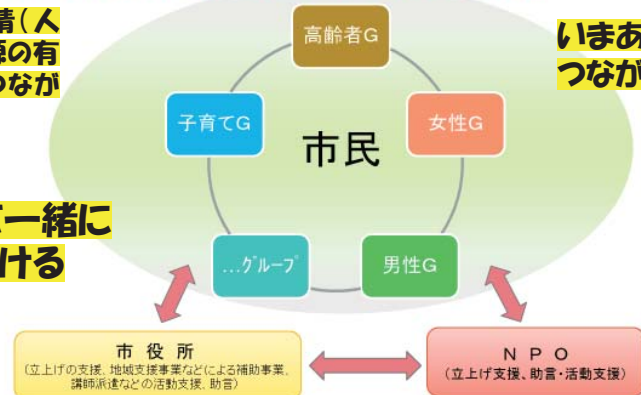
前回（H28.8/19）の会議の結果概要

だから、自らが楽しんで心地よいグループを、
気負わずに始めてみてはいかがでしょう

その地域の実情（人
口構成、社会資源の有
無、住民同士のつなが
り）に応じた内容

いまある地域の
つながりや形を活用

立場を越えて一緒に
はまかだし続ける



前回（H28.8/19）の会議の結果概要

①NPO とつながっていない理由

・目的の違い、NPO を知らない、情報にアクセスしにくい、何かできるのかわからない、わからないから行動につながらない、名前が横文字（NPO）だから想像しにくい、陸前高田には震災前なかった文化、NPO の中の人を知らない、団体数が多すぎる、特定の人同士しかつながっていないイメージ、高齢者にインターネットは難しい、新たにつなげる意義が見いだせない、イベント開催がメインで日々の生活でつながるイメージが持ちにくい、頼る必要がない、困っていない、自分たちでできる、気がついていない、直接的な被災者でなければ利用できないという感覚がある

②それを解消していくには？

・活動内容がわかりやすく発信、インターネットや Facebook だけでなく、電話や紙ベースの内容も大事、信頼できる人の口コミにのるような工夫をする、活動している人の顔が見えて、人がわかるような情報発信をする、中身も大事だが知っている人がやっているということを周知することが大事、イベントなどを NPO 関係者だけがするのはではなく地域住民と一緒にやる、はまかだして知り合う、その地域の人とその地域の課題を共有できる場をもつ、はまかだスポットを共有する、それをつなぐ人も大事、選びやすい情報一覧やチラシが必要、それぞれが情報発信・収集すること

・・・そこで改めて今月は

本日（H28.9/16）の会議の進め方①

◆タイムスケジュール ～14：00

（1）未来図会議のめざすこと

～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

陸前高田市 地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

（2）報告（話題提供）

報告 「はまかだスポット」のあるまち

地域福祉課 課長補佐兼地域福祉係長兼社会福祉士 馬場勝基

報告 「横田に住んでいがった会議」から見てきたもの

横田町民生児童委員協議会 及川昇さん

本日（H28.9/16）の会議の進め方②

◆タイムスケジュール 14：15～

（3）グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

⇒テーマ： みんなで「はまかだスポット」マップを作ってみよう

- ①市内8町ごとに、自分がもしくは、お互いで知っている「はまかだスポット」を書く
- ②そして、実際の地図に落とし込んでいく

15：25～ 個別アナウンス・周知

未来図会議のめざすこと
～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

陸前高田市地域包括ケアアドバイザー
岩室紳也氏

「はまかだスポット」のあるまち

地域福祉課
課長補佐 兼地域福祉係長 兼社会福祉士
馬場勝基

「横田に住んでいがった会議」
から見えてきたもの

横田町民生児童委員協議会
及川昇氏

未来図会議の目指すこと

～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

未来図会議の目指すこと

住民の生活にかかわる関係者が集まり、**住民一人一人の健康で文化的な生活**及び**ノーマライゼーションという言葉の****いらないまちづくり**の実現を目指し、震災のからの復興に向けた地域にとってよりよい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。

ヘルスプロモーション

健康づくりで大事な
「**居場所づくり**」とは？

そもそも「健康」って何？

WHOの健康の定義(1948年)

Health is a state of complete
physical, mental and social well-being
and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、身体的、精神的ならびに
社会的により良い、調和のとれた状態であり、
単に疾病がないとか、虚弱ではないということではない。

「健康」の定義改定案

WHO(1999年)

Health is a **dynamic** state of complete physical, mental, **spiritual** and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

頑張ってるねと褒められる

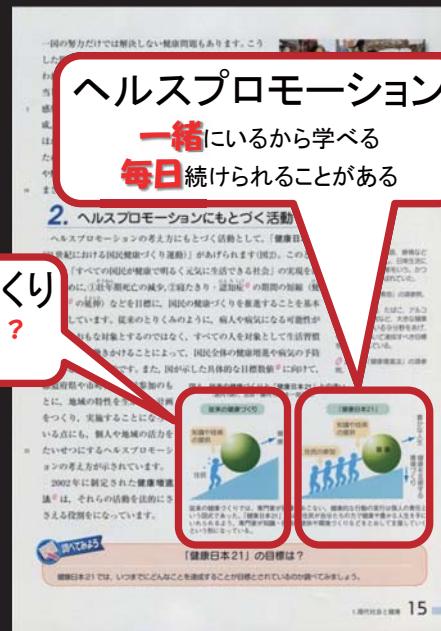
健康とは、身体的、精神的、**スピリチュアル**、ならびに社会的により良い、調和のとれた状態であり続けることで、単に疾病がないとか、虚弱ではないということではない。

毎日続けるには

スピリチュアル(spiritual)なものとは？



教科書にもあるヘルスプロモーション



従来型健康づくり
一人ではできない???
続かない???

オタワ憲章

(1986年)

ヘルスプロモーションのための5つの優先的行動分野

- 健康公共政策の確立
- 健康に関する支援的環境の創造
- 健康のための地域活動の強化
- 個人技術の向上
- ヘルスサービスの方向転換

地域の居場所づくりで健康づくり

ヘルスサービスの方向転換

オタワ憲章では、より健康的な暮らしを実現していく上で、保健衛生分野が果たす重要な役割を強調している。その実現には全ての専門職・保健サービス機構・行政組織のみならず、その保健衛生分野がサービスを行う対象である個人やコミュニティもその一翼を担っている。また、現状ではほとんどの事例で、ヘルスプロモーション・疾病予防・病気の診断・治療・看護・リハビリのそれぞれに投入される予算を理想的な割合にするために、ヘルスプロモーション・疾病予防のより一層の展開が必要となる。ただしこの展開をヘルスシステムの活動増加のみで図る必要はない。

地域住民のチカラで健康な居場所づくり

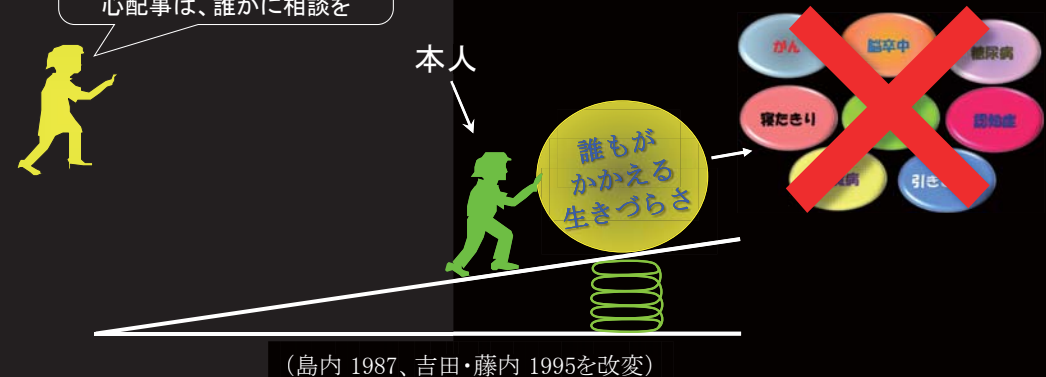
健康成果の達成の上で、保健分野以外の役割の方が効果的なこともあり得る。こうした分野の枠を超えた保健活動の支援における保健衛生分野の重要な役割を行政はよく理解する必要がある。

従来(指導型)の健康教育 (日本の健康づくり)

地域保健関係者

健診受けた??
飲み過ぎ、食べ過ぎ、運動不足
心配事は、誰かに相談を

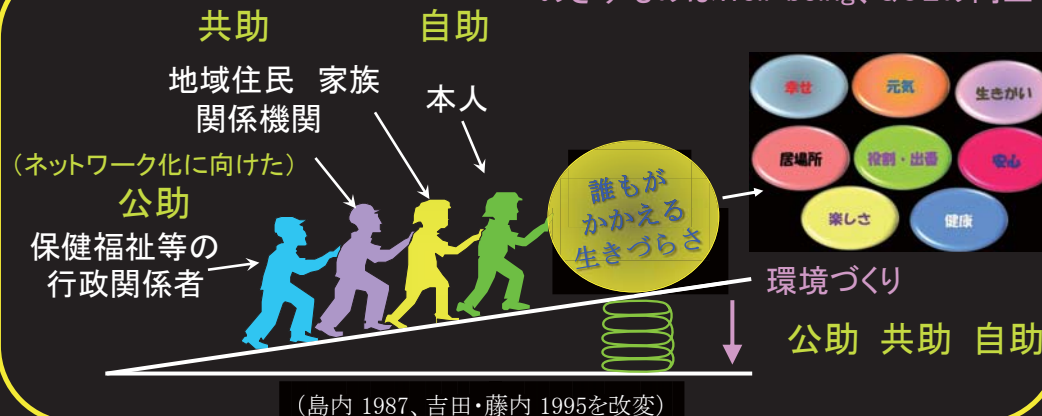
目指すのは
病気に、障がいにならない人生



ヘルスプロモーションの理念 (世界がめざす健康づくり)

関係性の再構築で
居場所づくり

めざすものはWell-being、QOLの向上



健康日本21(第2次)概念図

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

ソーシャルキャピタルの向上

①地域のつながりの強化

〈ソーシャルキャピタルの向上〉

①地域のつながりの強化

〈多様な活動主体による自発的取組の推進〉

②健康づくりに主体的に関わる国民の割合の増加

③健康づくりの活動に主体的に取り組む企業数の増加

④健康づくりに関して身近で専門的な支援・相談が受けられる
民間団体の活動拠点数の増加

〈健康格差の縮小〉

⑤健康格差の実態を把握し、対策に取り組む自治体の増加

「つながり」

と言えば

「絆」？

絆

はどう読みますか

絆(きずな)

つながり むすびつき

絆(ほだし)

手かせ 足かせ 迷惑 束縛

相反するから「お互い様」

ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の三要素

信 頼

3つは相互に関連

ネットワーク

規範(互酬性)
お互い様

絆(きずな: つながり、むすびつき)

絆(ほだし: 手かせ、足かせ、束縛、迷惑)

http://www.jppha.or.jp/sub/menu04_10.html

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])の効用

健康面の効用

総死亡率 ↓

自殺率 ↓

自覚的健康度 ↑

健康行動 ↑

喫煙率 ↓

運動習慣 ↑

健康以外の効用

行政効率

まちおこし

防災対策

治安・防犯

子育て

教 育

就 労

経済成長

技術革新

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])

平成26年度厚生労働科学研究(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用の方に関する研究」
http://www.jppha.or.jp/sub/menu04_10.html

「通いの場づくり～つながい を持ち続ける理由～②」

「はまかだスポット」のあるまち

1

2016/9/17

はまかだ★スポットMAP

市内には、はまっぺかだっぺ
みんなが笑顔になれる場所が
いろいろあるんだね！
もっとふえていくといいな★



横田町

竹駒町

矢作町

高田町

米崎町

気仙町

小友町

広田湾

広田町

※住民が主体となって行っているスポットのMAPです

H28.8現在

地域の実情

陸前高田市



3

2016/9/17

市内全域

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	137	151	288	80	111	146	257
61	139	160	299	81	122	164	286
62	160	164	324	82	127	138	265
63	169	172	341	83	91	129	220
64	169	157	326	84	74	159	233
65	191	158	349	85	76	140	216
66	184	210	394	86	81	122	203
67	194	222	416	87	56	100	156
68	226	193	419	88	31	90	121
69	148	137	285	89	35	106	141
70	73	85	158	90	25	89	114
71	126	152	278	91	28	64	92
72	147	164	311	92	22	78	100
73	145	158	303	93	18	55	73
74	155	181	336	94	4	31	35
75	142	175	317	95	6	29	35
76	120	156	276	96	4	27	31
77	105	153	258	97	2	16	18
78	135	164	299	98	2	14	16
79	115	178	293	99	2	9	11
				100～	3	19	22
				合計	9658	10286	19944

4

2016/9/17

高齡化率

市内全城		28.831			
人口	男性	女性	65歳以上	75歳以上	
19,944	9,658	10,286	36.7	20.4	

5

2016/9/17

矢作町



6

2016/9/17

高齡化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	11	13	24	80	12	18	30
61	18	12	30	81	11	19	30
62	18	19	37	82	15	15	30
63	23	13	36	83	12	13	25
64	25	16	41	84	9	20	29
65	20	17	37	85	8	16	24
66	14	27	41	86	9	19	28
67	14	16	30	87	5	10	15
68	15	17	32	88	6	8	14
69	13	10	23	89	4	13	17
70	7	8	15	90	7	9	16
71	16	15	31	91	2	7	9
72	14	17	31	92	2	6	8
73	14	16	30	93	2	4	6
74	11	19	30	94	0	2	2
75	13	18	31	95	2	4	6
76	13	9	22	96	0	6	6
77	7	16	23	97	1	3	4
78	13	9	22	98	0	1	1
79	11	21	32	99	0	2	2
			100~		0	2	2
			合計		838	878	1716

7

2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65)	高齢化率 (75)
矢作	1,716	734	434	42.7	25.2

8

2016/9/17

横田町



9

2016/9/17

高齢化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	20	13	33	80	7	10	17
61	15	15	30	81	7	14	21
62	18	9	27	82	3	7	10
63	20	18	38	83	10	19	29
64	14	19	33	84	3	12	15
65	28	8	36	85	5	18	23
66	16	13	29	86	8	15	23
67	15	8	23	87	7	9	16
68	13	8	21	88	5	9	14
69	12	12	24	89	8	7	15
70	3	8	11	90	4	6	10
71	11	13	24	91	5	7	12
72	7	11	18	92	2	8	10
73	8	13	21	93	1	5	6
74	15	17	32	94	1	5	6
75	20	12	32	95	0	2	2
76	13	10	23	96	0	4	4
77	0	16	16	97	0	0	0
78	16	9	25	98	0	0	0
79	10	11	21	99	0	0	0
			100～		1	0	1
			合計		764	740	1504

10

2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65)	高齢化率 (75)
横田	1,504	590	351	39.2	23.3

11

2016/9/17

竹駒町



12

2016/9/17

高齢化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	10	10	9	19	80	11	10
61		10	16	26	81	13	17
62	12	11	11	23	82	7	16
63	17	13	13	30	83	5	8
64	17	18	18	35	84	5	9
65	15	12	27	85	8	17	25
66	13	22	35	86	8	10	18
67	18	17	35	87	4	6	10
68	17	20	37	88	1	4	5
69	9	11	20	89	2	15	17
70	2	9	11	90	1	5	6
71	14	14	28	91	2	3	5
72	10	15	25	92	3	4	7
73	16	14	30	93	1	3	4
74	12	12	24	94	0	1	1
75	6	12	18	95	0	2	2
76	12	13	25	96	0	3	3
77	8	8	16	97	0	1	1
78	11	15	26	98	0	1	1
79	7	12	19	99	1	1	2
				100～	0	4	4
				合計	801	909	1710

13

2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率（65）	高齢化率（75）
竹駒	1,710	588	316	34.3	18.4

14

2016/9/17

気仙町



15

2016/9/17

高齢化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	15	24	39	80	6	13	19
61	15	16	31	81	8	18	26
62	16	13	29	82	13	15	28
63	15	23	38	83	7	13	20
64	12	14	26	84	7	24	31
65	21	13	34	85	8	11	19
66	16	19	35	86	8	11	19
67	19	21	40	87	7	7	14
68	22	21	43	88	2	6	8
69	15	13	28	89	3	11	14
70	6	4	10	90	1	12	13
71	13	9	22	91	4	4	8
72	12	10	22	92	4	8	12
73	15	16	31	93	3	6	9
74	11	13	24	94	0	2	2
75	9	13	22	95	0	5	5
76	9	15	24	96	0	1	1
77	7	11	18	97	0	1	1
78	15	13	28	98	0	3	3
79	15	17	32	99	1	2	3
	55	69	124	100～	0	2	2
			合計		858	935	1793

16

2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65)	高齢化率 (75)
気仙	1,793	670	381	37.3	21.2

17

2016/9/17

高田町



18

2016/9/17

高齢化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	26	31	57	80	29	33	62
61	18	34	52	81	28	35	63
62	37	37	74	82	26	30	56
63	31	40	71	83	16	24	40
64	32	27	59	84	11	33	44
65	41	31	72	85	12	19	31
66	40	36	76	86	13	15	28
67	35	52	87	87	6	24	30
68	52	51	103	88	7	18	25
69	25	32	57	89	4	20	24
70	23	18	41	90	2	20	22
71	25	36	61	91	6	15	21
72	36	45	81	92	3	12	15
73	29	38	67	93	4	20	24
74	42	45	87	94	0	10	10
75	35	41	76	95	1	5	6
76	28	35	63	96	0	5	5
77	30	33	63	97	0	2	2
78	24	31	55	98	1	3	4
79	24	40	64	99	0	1	1
	489	564	1053	100~	0	6	6
			合計		2317	2505	4822

19

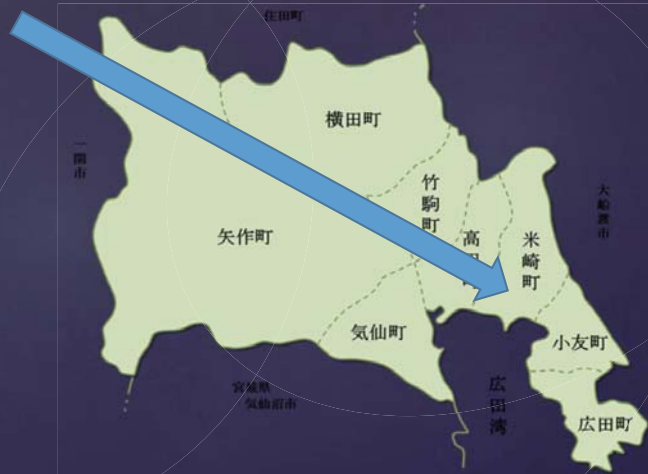
2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65)	高齢化率 (75)
高田	4,822	1,572	840	32.6	17.4

20

2016/9/17

米崎町



21

2016/9/17

高齢化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	19	21	21	40	80	13	23
61	28	26	26	54	81	17	20
62	17	30	30	47	82	17	17
63	25	26	26	51	83	15	17
64	29	24	24	53	84	13	17
65	20	29	49	85	7	20	27
66	28	32	60	86	9	13	22
67	38	40	78	87	4	14	18
68	42	30	72	88	4	13	17
69	25	15	40	89	1	13	14
70	11	13	24	90	4	7	11
71	15	28	43	91	2	6	8
72	29	27	56	92	2	10	12
73	17	21	38	93	2	5	7
74	23	30	53	94	1	4	5
75	25	24	49	95	2	2	4
76	16	24	40	96	0	2	2
77	20	22	42	97	0	4	4
78	21	22	43	98	0	1	1
79	17	22	39	99	0	2	2
			100~		1	0	1
			合計		1496	1555	3051

22

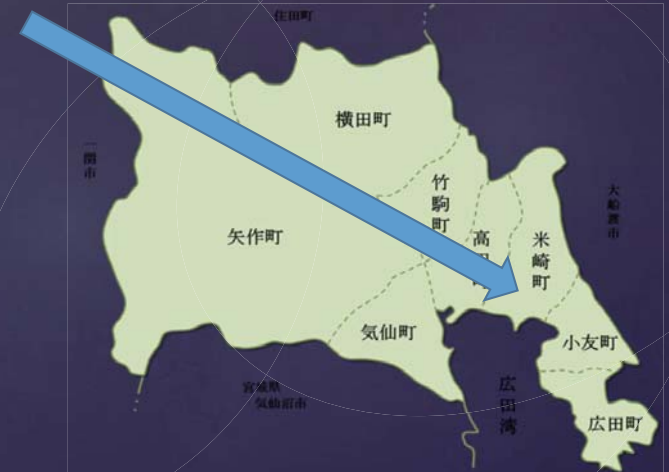
2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (65)	高齢化率 (75)
米崎	3,051	1,050	537	34.4	17.6

23

2016/9/17

米崎町



24

2016/9/17

高齢化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	19	21		40	80	13	23
61	28	26		54	81	17	20
62	17	30		47	82	17	17
63	25	26		51	83	15	17
64	29	24		53	84	13	17
65	20	29	49	85	7	20	27
66	28	32	60	86	9	13	22
67	38	40	78	87	4	14	18
68	42	30	72	88	4	13	17
69	25	15	40	89	1	13	14
70	11	13	24	90	4	7	11
71	15	28	43	91	2	6	8
72	29	27	56	92	2	10	12
73	17	21	38	93	2	5	7
74	23	30	53	94	1	4	5
75	25	24	49	95	2	2	4
76	16	24	40	96	0	2	2
77	20	22	42	97	0	4	4
78	21	22	43	98	0	1	1
79	17	22	39	99	0	2	2
				100～	1	0	1
				合計	1496	1555	3051

25

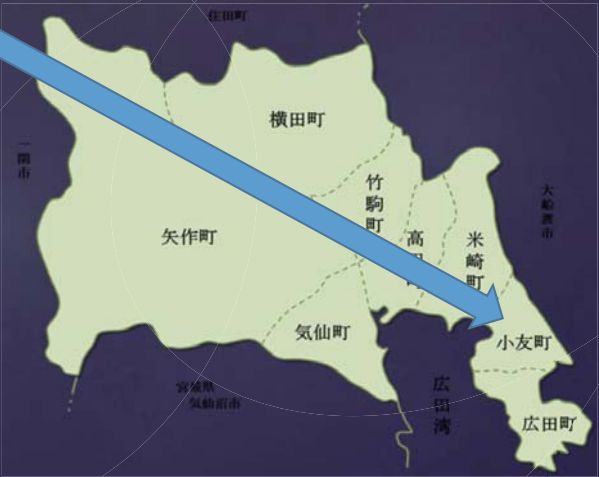
2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率（65）	高齢化率（75）
米崎	3,051	1,050	537	34.4	17.6

26

2016/9/17

小友町



27

2016/9/17

高齢化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	13	19		32	80	13	18
61	14	15		29	81	15	15
62	14	15		29	82	18	14
63	17	17		34	83	11	12
64	17	13		30	84	9	15
65	15	24	39	85	13	14	27
66	27	21	48	86	11	16	27
67	20	26	46	87	9	14	23
68	21	18	39	88	1	7	8
69	13	16	29	89	5	9	14
70	6	9	15	90	2	11	13
71	14	17	31	91	2	8	10
72	13	21	34	92	2	13	15
73	22	15	37	93	4	2	6
74	16	17	33	94	1	2	3
75	9	27	36	95	1	6	7
76	13	14	27	96	1	2	3
77	16	20	36	97	0	0	0
78	14	28	42	98	0	3	3
79	13	16	29	99	0	0	0
				100～	1	1	2
				合計	985	1069	2054

28

2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率（65）	高齢化率（75）
小友	2,054	822	471	40.0	22.9

29

2016/9/17

広田町



30

2016/9/17

高齢化率

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
60	23	21	44	80	20	21	41
61	21	26	47	81	23	26	49
62	28	30	58	82	28	24	52
63	21	22	43	83	15	23	38
64	23	26	49	84	17	29	46
65	31	24	55	85	15	25	40
66	30	40	70	86	15	23	38
67	35	42	77	87	14	16	30
68	44	28	72	88	5	25	30
69	36	28	64	89	8	18	26
70	15	16	31	90	4	19	23
71	18	20	38	91	5	14	19
72	26	18	44	92	4	17	21
73	24	25	49	93	1	10	11
74	25	28	53	94	1	5	6
75	25	28	53	95	0	3	3
76	16	36	52	96	3	4	7
77	17	27	44	97	1	5	6
78	21	37	58	98	1	2	3
79	18	39	57	99	0	1	1
	97	167	264	100~	0	4	4
合計					1599	1695	3294

31

2016/9/17

	人口	65歳以上	75歳以上	高齢化率（65）	高齢化率（75）
広田	3,294	1,311	758	39.7	23.0

32

2016/9/17

はまらっせん農園 下和野団地



33

2016/9/17

宮城県東松島市視察研修



34

2016/9/17

柵ヶ沢団地 ラジオ体操



35

2016/9/17

横田町



36

2016/9/17

横田町 グランドゴルフ場



横田町 集いの場



① ご報告

平成28年度「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例において
認知症にやさしい地域支援の会(陸前高田市)
菅野 不二夫 会長
内閣府から紹介事例として決定いたしました。
おめでとう ございます。



② ご報告

復興サポートステーション パクト
被災者(おもに高齢者)の個別ニーズに対応するべく、買い物支援(本人+パクト)を実施しました。
本人との顔を合わせる機会を多く儲けながら…

2年ぶりに自分で買い物ができたAさんは、「本当に楽しかった」とイキイキした表情で話していました。

41

2016/9/17



42

復興サポートステーション 陸前高田市にお住まいの皆様へ

お困りごとありませんか? 復興サポートステーション

陸前高田市復興サポートステーションでは、今も全国からボランティアを受け入れ、様々なボランティア活動を行っています。
お困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

詳しいご相談・ご依頼はこちらまで
☎ 0192-47-4977
(受付時間: 水～日曜日 午前9時～午後5時)

陸前高田市復興サポートステーション
住所: 陸前高田市米崎町字中島108-2

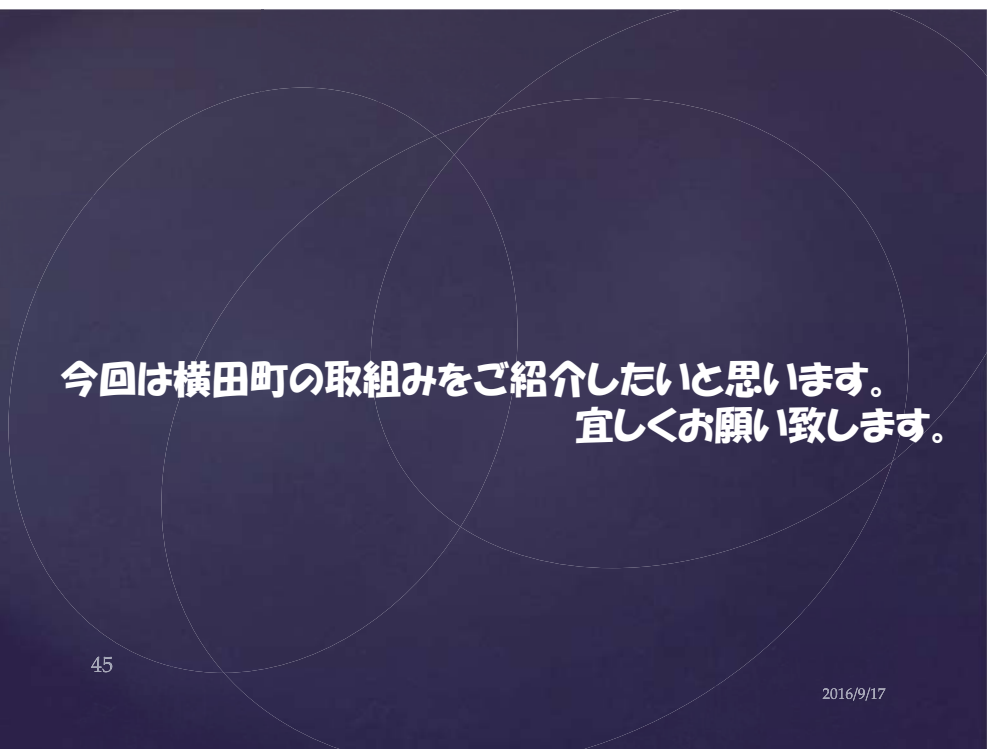
PECT ※NPO法人パクトは、「陸前高田市災害ボランティアセンター」の仮設スタッフ拠点が中心となって、復興支援と地域活性化を目的に、2011年7月に開設された地域の復興支援拠点です。

43

2016/9/17

横田町





今回は横田町の取組みをご紹介します。
宜しくお願い致します。

横田に住んでいがった 会議から見えてきたもの

地域づくりは人づくり



横田町



2

2016/9/17

横田町民生児童委員協議会



及川 昇 さん

「横田に住んでいがった！を実現する会議」とは？

少子高齢化が進み、認知症高齢者が増加するなど、さまざまな課題が山積し、個人的な努力や公的サービスだけで対応するのは困難な時代を迎えています。そのなかで、誰もが安心して生活できる地域づくりが求められており、それを実現するためには、介護、医療、福祉などの関係機関や団体、行政、そして何よりも住民のみなさんとの連携・共働による取り組みが必要です。

また、地域ごとの実情に応じた取り組みや地域力の向上が重要となりますが、その目的達成の手法の一つに介護保険法に規定された「地域ケア会議」があります。「横田に住んでいがった！」と誰もが感じられる地域にしていくための話し合いを進めていくのが、この会議です。



この会議の目指すところは？

この横田町で、いつまでも安心して自分らしく暮らしていくために何が必要かを話し合い、自分たちに何ができるかを考え、協力しあって一つ一つを実現していくことによって、横田町に住む誰もが「横田に住んで良かった！」と感じられるまちにしていこうことを目指します。どんなまちが理想でしょうか？



・自分だったら、どんな老後を過ごしたいですか？

・自分が高齢になったとき、どんな横田町であってほしいですか？

・自分や家族にとっても生活しやすいまち、安心して暮らせるまちは、どんなまちですか。

いろいろなことを「自分のこと」として置き換えて、地域のみなさんで話し合い、共働して取り組んでいく場とすることを目指しています。



主人公はわたしたちです！

いま地域で起こっている問題や困りごとは、将来自分にも起こり得る問題かも知れません。

他人事ではなく自分のこととして考えることによって、見えてくるものがあります。横田に住んで「良かった」「幸せだ」と誰もが感じられる地域をつくっていくために、現状や課題を把握し、解決を目指して一番力を発揮できるのは、わたしたち横田の住民です。



まちづくりをすすめていくために大切なこと！

- ・「やってみようか」というちょっとした“**勇気**”
- ・たとえうまくいなくてもめげない“**熱意**”
- ・あきらめない“**根気**”
- ・「まちづくりって楽しい！」と思えること
- ・そんな気持ちを共有できる**仲間**の存在があること



「横田に住んでいった！を実現する会議」参加呼びかけ先 ほか個人参加

	参加呼びかけ団体名
1	陸前高田市民生・児童委員協議会横田地区
2	横田地区コミュニティ推進協議会
3	横田女性会
4	横田保育園父母の会
5	陸前高田市保育協会 横田保育園
6	たけのこ学童クラブ
7	横田小学校PTA
8	横田町保健推進員
9	陸前高田市社会福祉協議会
10	大船渡警察署高田幹部交番
11	横田長生クラブ
12	土筆の里 あがらいや
13	たかた☆ハッピーウェーブ！
14	横田町食生活改善推進員協議会
15	横田青年会
16	NPO法人 p@ct (パクト)

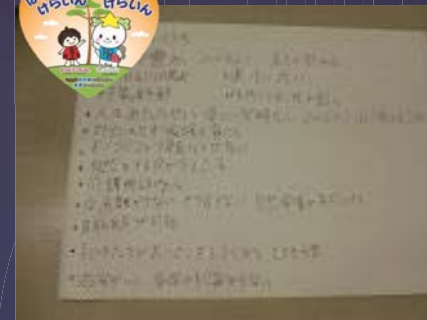


横田に住んでいった会議！ 平成27年9月16日 №1



平成27年10月14日 №2

11月18日 №3

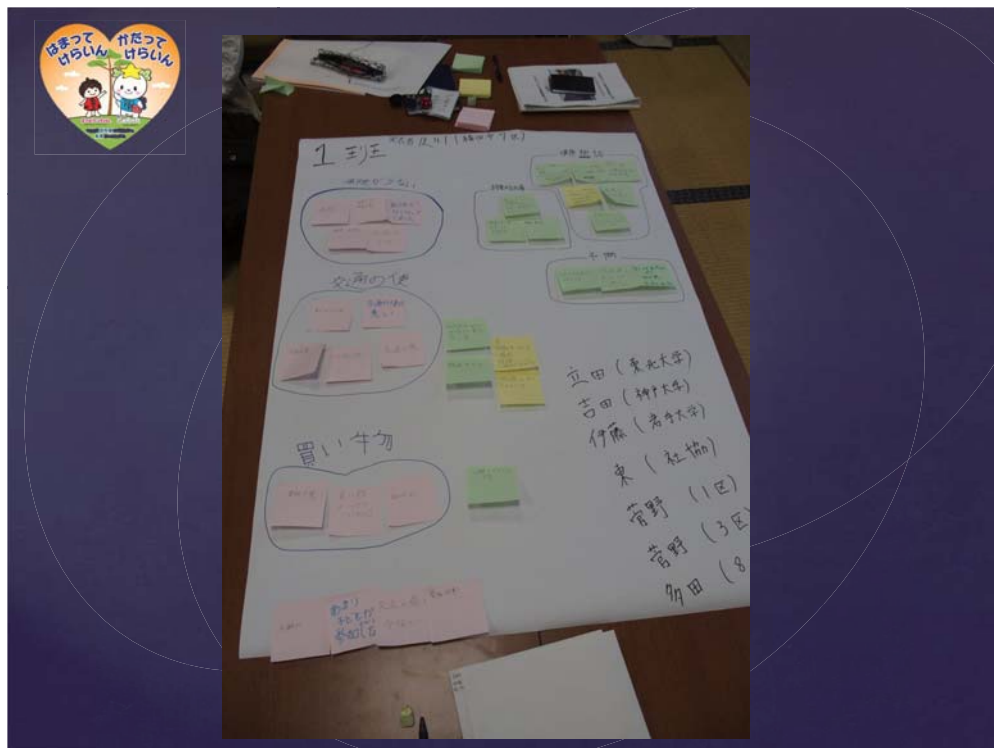


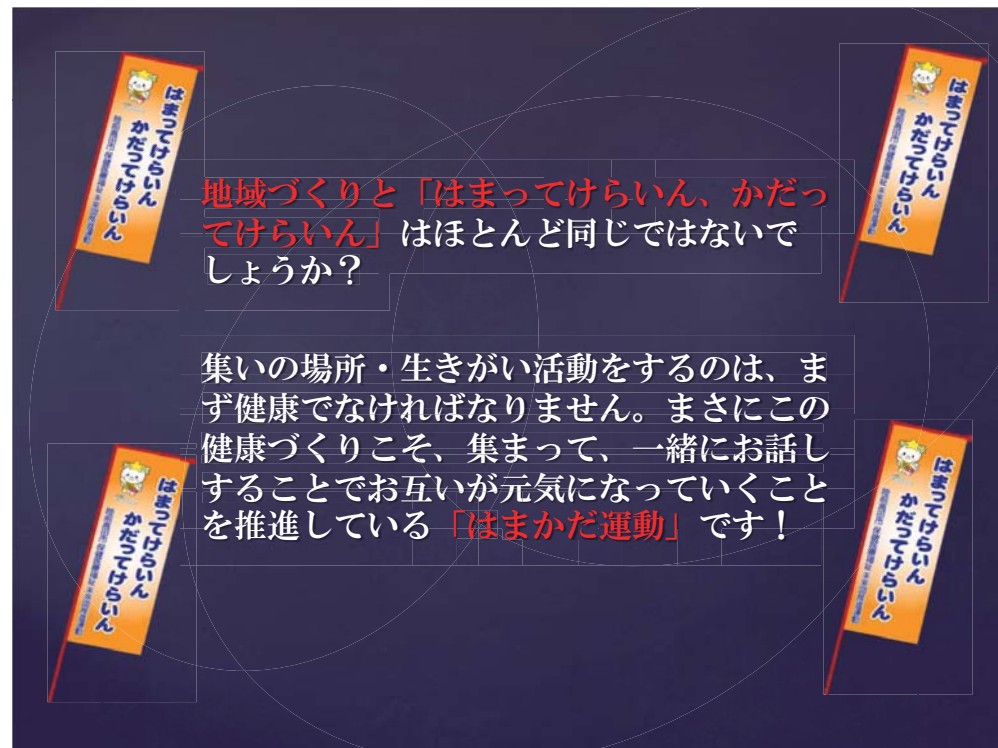




平成27年12月15日 No.4
まるで**化学反応**のように、つながりが生まれました。

岩手大学
東北大学
神戸大学
学生も参加し、横田について考えました。





できることから、コツコツと

- ・きょういく予定がある。
- ・きょうは●●の用事がある

細く長く無理のないように続けて行きたいと思います。
お聴きいただきありがとうございました。

終

グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

◆テーマ: みんなで「はまかだスポット」マップを作ってみよう

- ①市内8町ごとに、自分がもしくは、お互いで知っている「はまかだスポット」を書く
- ②そして、実際の地図に落とし込んでいく

14:15～14:45 とにかく貼る

14:45～15:05 8町をザクッと見て歩く

15:05～15:15 グループはまかだ

- ①やってみての感想 ②完成に向けての意見

◆はまかだスポットの書き方

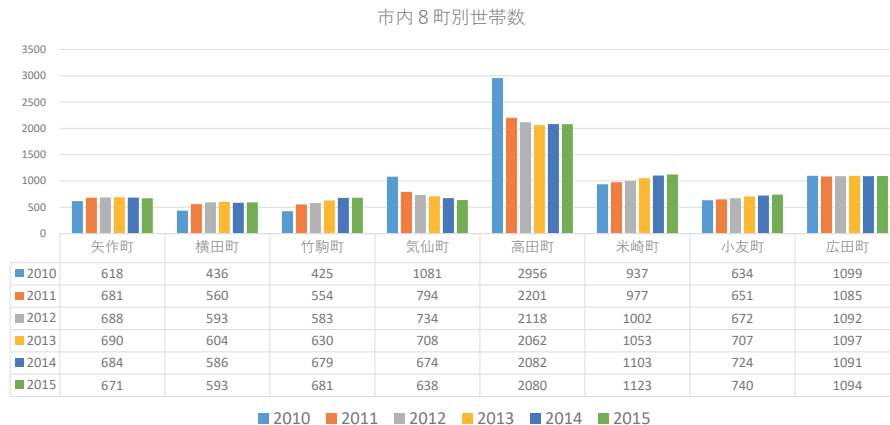
◎ポイント

日常的にある… 日々ある…

- 1 活動名（スポット名）
- 2 住所（〇〇町）
- 3 種別（活動形態）
- 4 内容

20160908粗データ

陸前高田市8町別世帯数推移（各年10月末現在）



グループではまかだ①

①やってみての感想

- ・矢作10、横田11、竹駒13、気仙9、高田43、米崎25、小友14、広田11 →合計
- ・把握していないこと気づかされた
- ・スポット知らないな～
- ・地域によってかたよりあるな～

②完成に向けての意見

- ・参加している人が限られている
→地域の人にも参加してもらおう
- ・各ジャンル、団体など階層化していくといいのではない
- ・データで作るけれども、高齢者も見やすいようにはどうしたらいいか検討
→いくつかバージョンがあってもいいのでは
- ・公民館長、婦人部などからの情報収集
- ・有料か無料か、対象者もわかるといい
- ・アクセス方法（どうやったら行けるのか）などもあると嬉しい
- ・活動名はないけれど、一つのカテゴリになっているもの（例: グラウンドゴルフ）を検索すると、市内の活動が出てくるように
- ・一目でわかる写真よい

矢作町

陸前高田市未来図会議Map

表示回数 51 回

すべての変更が Googleドライブに保存されました

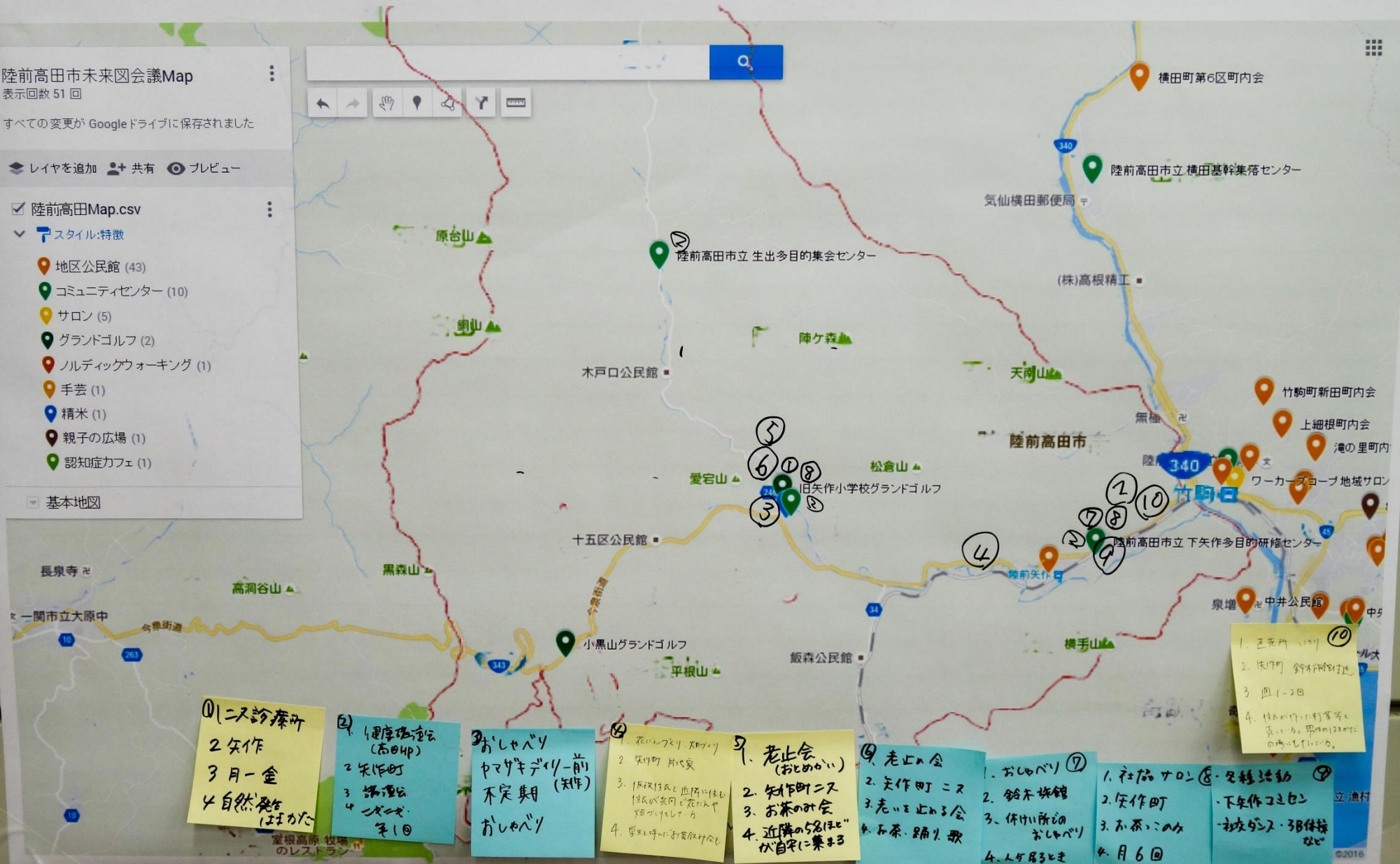
レイヤを追加 共有 プレビュー

陸前高田Map.csv

スタイル:特徴

- 地区公民館 (43)
- コミュニティセンター (10)
- サロン (5)
- グランドゴルフ (2)
- ノルディックウォーキング (1)
- 手芸 (1)
- 精米 (1)
- 親子の広場 (1)
- 認知症カフェ (1)

基本地図



① ニス診療所
2 矢作
3 月一金
4 自然発生
はばかた

② 健康講座
(高田町)
2 矢作町
3 講演会
4 ンダニ
第1回

③ おしゃべり
マツキデイリー-前
不定期
おしゃべり

④ 1. 花のつくり Xマツキ
2. 矢作町 月夜家
3. 行政サービス 施設に住む
住民の共同生活の場
を創出する
4. 町民の声を聞き取る

⑤ 老止会
(おとめかい)
2. 矢作町ニス
3. お茶のみ会
4. 近隣の5名(おとめかい)
が自らに集まる

⑥ 老止会
2. 矢作町ニス
3. 老い止まる会
お茶・踊り・歌

⑦ おしゃべり
2. 鈴木旅館
3. 休けい所
おしゃべり
4. 人々集まる

⑧ 社会サロン
2. 矢作町
3. お茶のみ会
4. 月6回

⑨ 足軽活動
・下矢作コビ
・お茶のみ会
・おしゃべり
など

⑩ 1. 正堂町 1001
2. 矢作町 金谷町
3. 図1-2回
4. 矢作町の町民が
集まる場所を
創出する

立漁村

©2016

横田町

横田町 ①
毎年? 地域の婦人部
で「つるしバナ」を
数ヶ月かけて作り、
川の夏祭りに展示(主幹)

1. 3歳は福岡タワー
お母さん (お母さん)
2. 福岡タワー 川のほとり
3. 母子 (1)
4. お母さん
育児相談

1. 社協サロン (4)
2. 横国コセン
3. お茶のみなさん
4. 第2.4金曜日

渡辺商店 (3)
梅江町大連呼
店でのお茶のみ
みまじり
散り

②
・高田合唱団
・横田町 堂の沢
・毎週(金)
19-21時

横田町 8 区 (6)
 公民館 管理
 担当: 金

1. 運康滿漢文 ⑦
(高田HP)

2. 横田町

3. 滿漢文

4. ニギニギ

年10

- ・ウォーキング ④
- ・横田 コシエン
- ・?(頻度)
- ・歩く

梅田町
 新仙川河川敷
 今川町
 3面
 梅田町集落地内

3B 体標
横田町
ジセニ
?

植田町4区 ④
 一 心 会 館
 B. B. C
 市 防 火 777
 町 2-5-10 etc

陸前高田市未来図会議Map
表示回数 51 回

すべての変更が Google ドライブに保存されました

レイヤを追加 共有 プレビュー

☒ 陸前高田Map.csv

▼ **スタイル:特徴**

- 地区公民館 (43)
- コミュニティセンター (10)
- サロン (5)
- グランドゴルフ (2)
- ノルディックウォーキング (1)
- 手芸 (1)
- 精米 (1)
- 親子の広場 (1)
- 認知症カフェ (1)

基本地图

陸前高田市立 生出多目的集会センター

Google My Maps

竹駒町

陸前高田市未来図会議Map

表示回数 51 回

すべての変更が Googleドライブに保存されました

レイヤを追加 共有 プレビュー

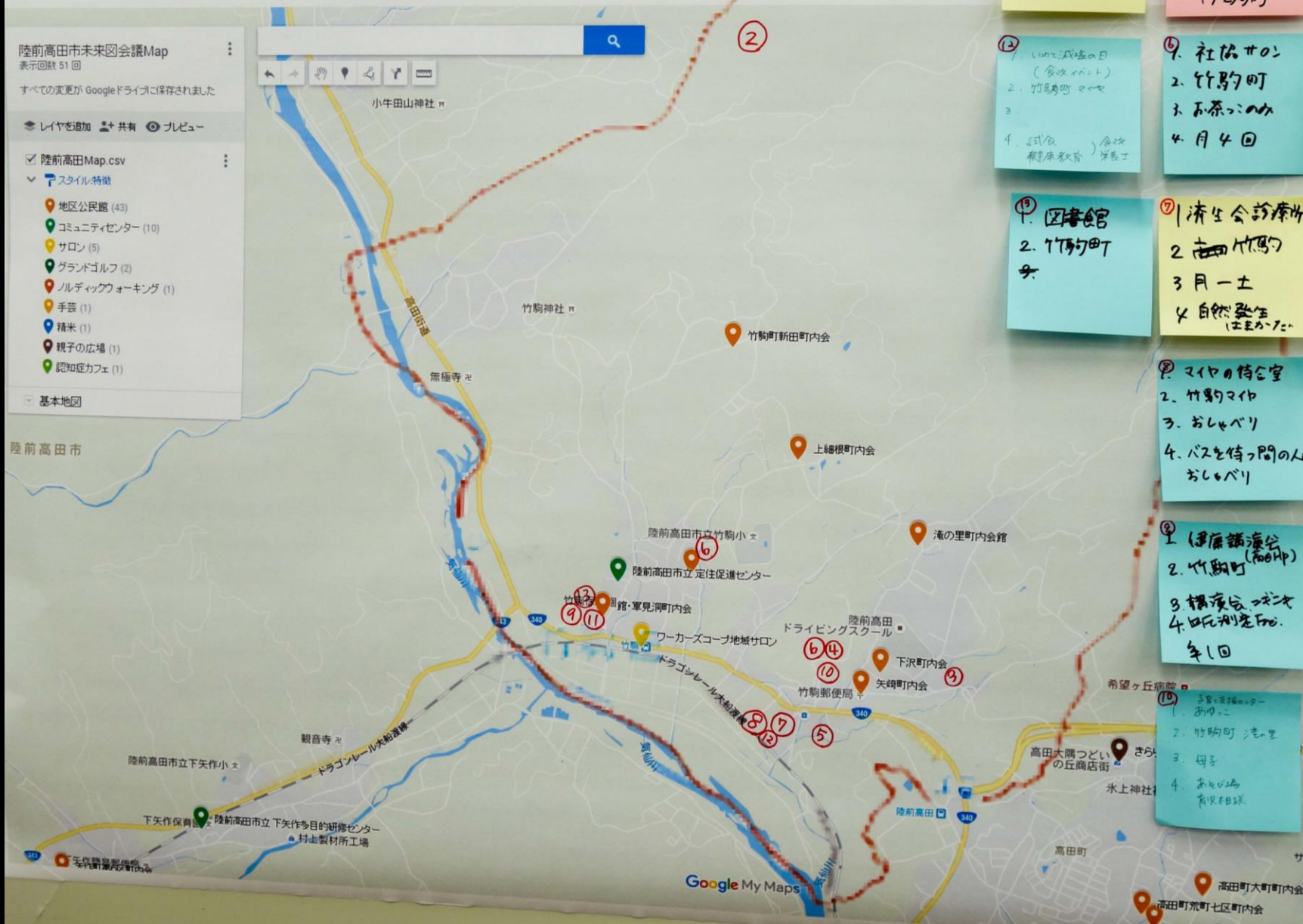
陸前高田Map.csv

スタイル特徴

- 地区公民館 (43)
- コミュニティセンター (10)
- サロン (5)
- グランドゴルフ (2)
- ノルディックウォーキング (1)
- 手芸 (1)
- 精米 (1)
- 親子の広場 (1)
- 認知症カフェ (1)

基本地図

陸前高田市



11. 竹駒町
「はまのや」
2. 竹駒町 (2020)
3. 竹駒町
4. 竹駒町

5. 未来商店街
・商店、倉庫
・イベント
・市日 開校
・竹駒町

1. 定例会
2. 竹駒町
3. 定例会
4. 月1回集まる

1. 定例会
2. 竹駒町
3. 定例会
4. 月1回集まる

12. いまの生活の日
(倉庫イベント)
2. 竹駒町
3. 竹駒町
4. 竹駒町

6. 社会サロ
2. 竹駒町
3. 竹駒町
4. 月4回

13. 図書館
2. 竹駒町
3. 竹駒町

7. 済生会診療所
2. 竹駒町
3. 月一土
4. 自然塾

3. 玉山温泉
・竹駒町
・温泉 (倉庫?)

8. マイの待合室
2. 竹駒町
3. おしゃべり
4. バスを持つ間の
おしゃべり

3. グランドゴルフ
2. 竹駒町
3. 竹駒町
4. 竹駒町

9. 竹駒町
2. 竹駒町
3. 竹駒町
4. 竹駒町

4. ラジオ
2. ラジオ
3. ラジオ
4. ラジオ

10. 竹駒町
2. 竹駒町
3. 竹駒町
4. 竹駒町

1. ラジオ
2. ラジオ
3. ラジオ
4. ラジオ

気仙町

陸前高田市未来図会議Map

表示回数 51 回

すべての変更が Google ドライブ に保存されました

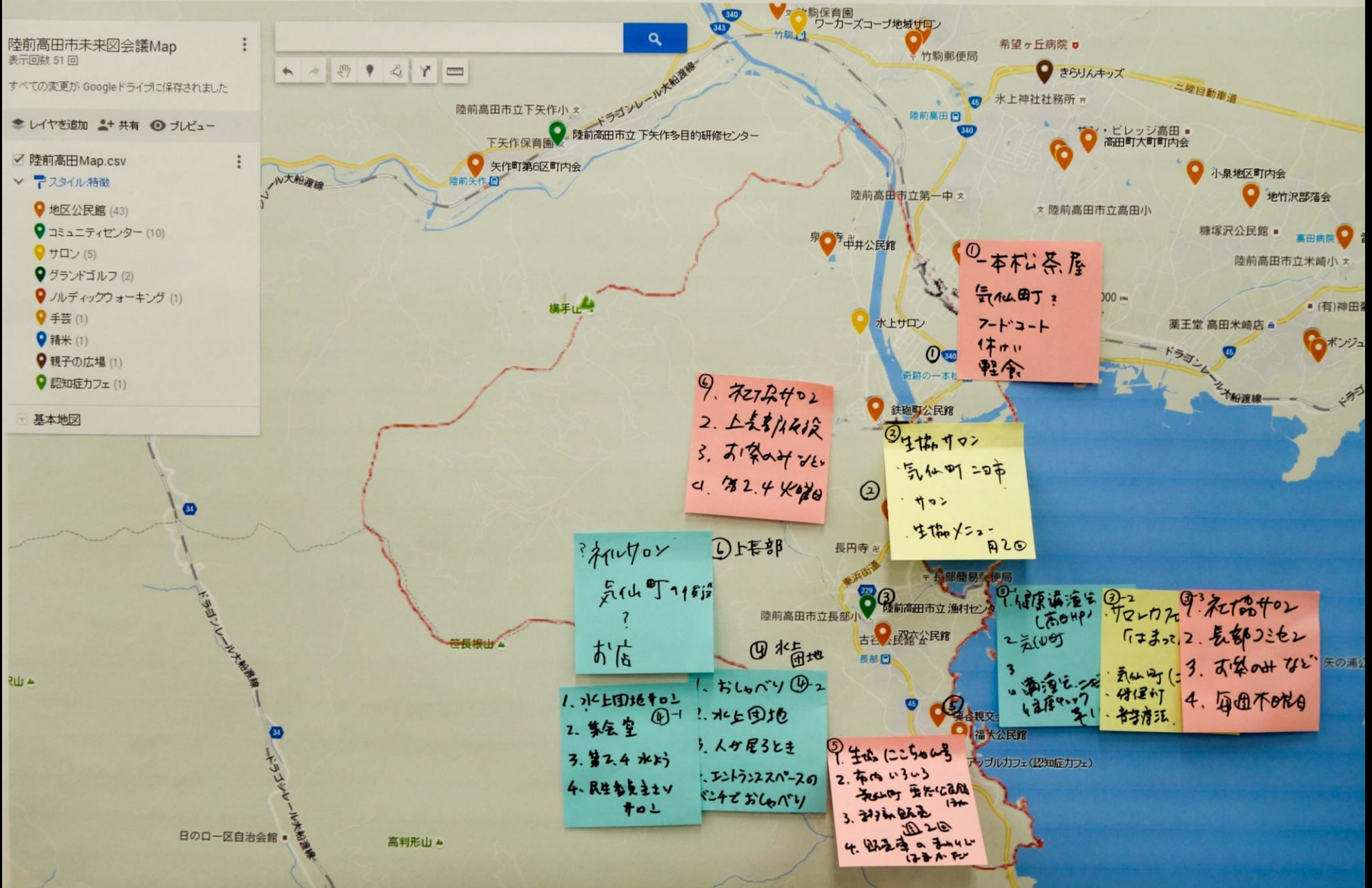
レイヤを追加 共有 プレビュー

陸前高田Map.csv

スタイル特徴

- 地区公民館 (43)
- コミュニティセンター (10)
- サロン (5)
- グランドゴルフ (2)
- ノルディックウォーキング (1)
- 手芸 (1)
- 精米 (1)
- 親子の広場 (1)
- 認知症カフェ (1)

基本地図



①-本松茶屋
気仙町:
フードコート
休館
軽食

④ 本松茶屋
2. 上長部
3. 本松茶屋
4. 第2.4 火曜

③ 生協サロン
気仙町 二市
サロン
生協 X ニ
月 20

? 本松茶屋
気仙町 1 市役所
?
お店

⑥ 上長部

④ 水上田

1. 水上田 ④-1
2. 集会所
3. 第2.4 水曜
4. 民生委員主
サロ

1. おしゃべり ④-2
2. 水上田
3. 人々居るとき
4. エントランス
2.4 おしゃべり

⑤ 生協に
2. 市内 い
3. 本松茶屋
4. 第2.4 火曜

① 健康講座
(高HP)
2 元町
3 第2.4 火曜

②-2 サロン
「はま」
気仙町
休館
軽食

③-3 本松茶屋
2. 長部
3. 本松茶屋
4. 毎週 不

高田町

陸前高田市未来図会議Map
表示回数 51 回

すべての変更が Googleドライブに保存されました

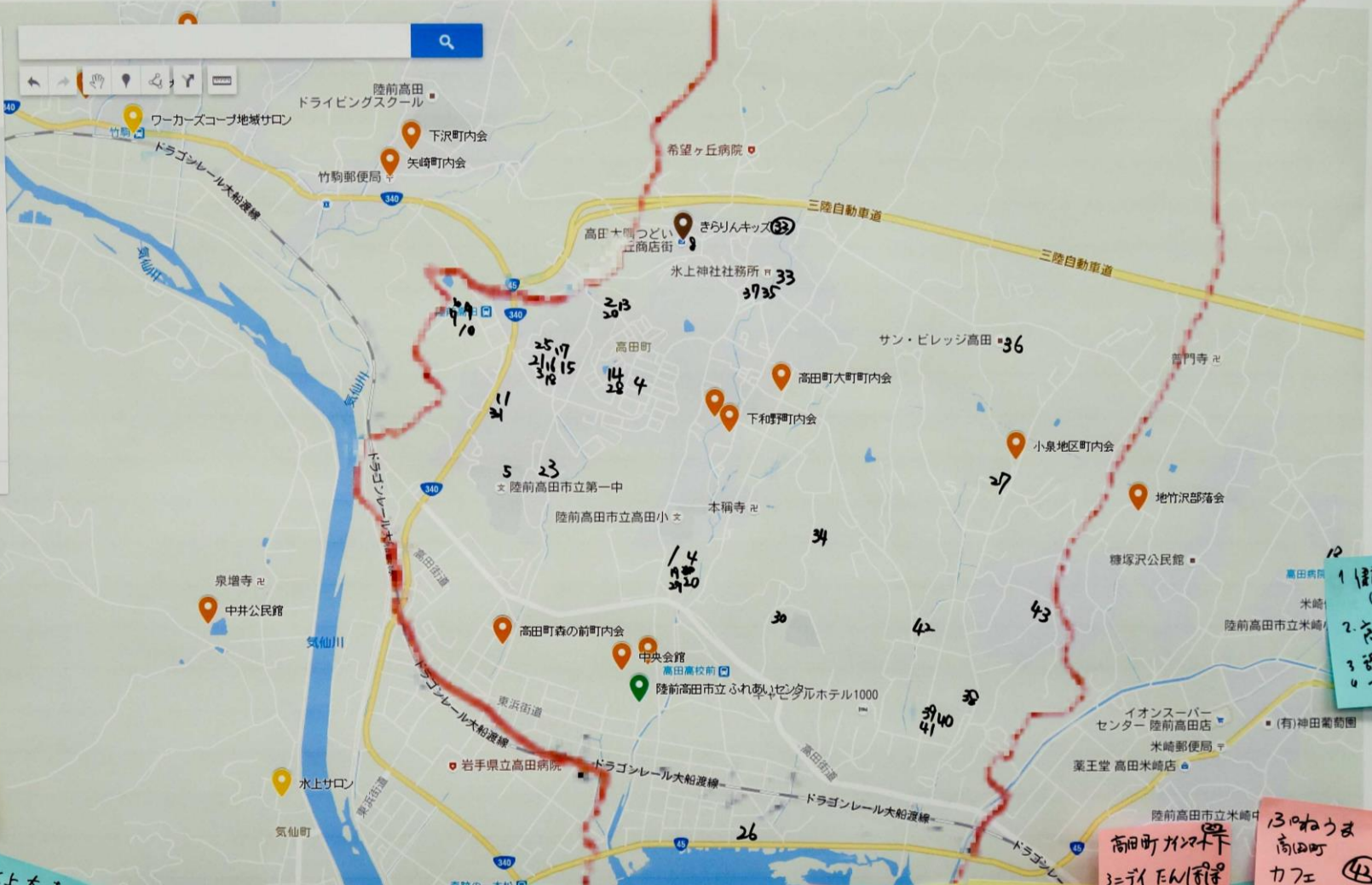
レイヤを追加 共有 プレビュー

陸前高田Map.csv

スタイル:特徴

- 地区公民館 (43)
- コミュニティセンター (10)
- サロン (5)
- グランドゴルフ (2)
- ノルディックウォーキング (1)
- 手芸 (1)
- 精米 (1)
- 親子の広場 (1)
- 認知症カフェ (1)

基本地図



・サクレマ
「はなとら」で
・高田町
・保健所
・香寿亭 語り 10

氷上太鼓
・高田
・?(頻度)
・太鼓
・4月10日

・ノルディック
ウォーキング
・高田
・毎朝
・歩く 4
・4. 45 国道沿

1. 男前節レ
道場
2. 高田町(松原死)
3. 介護予防
自主グループ
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 市民交流プラザ
2. 下本野田地
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 健康講座
(高田町)
2. 高田町 12
3. 健康講座
4. 健康講座 年10

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

1. 町民交流プラザ
2. 高田町
3. 色々 29
4. 自由な集まる
最終本陣 昼食会
43

米崎町



① 生協サロン
・佐野便設(米崎)
・サロン
・2回/月

1. マヤアパルロド
店前ベンチ
2. 米崎町
はまがた

・生協サロン
・西園道便設
(米崎)
・サロン
・2回/月

① ?
② 米崎(上級)
③ 老人クラブ
④ 毎月集まるお茶会

1. グラウンドゴルフ
2. 米崎町館

1. 健康づくり隊
2. 米崎町館
3. 健康づくり隊の活動
4. 米崎町館の活動

1. 米崎町館
2. 米崎町
3. 米崎町
4. 米崎町

1. 踊り子
民謡
2. 米崎町
イオンの便

1. 米崎町
2. 米崎町
3. 母子
4. 米崎町

1. ままごくり
2. 米崎町
3. 第13月曜日
公民館に集う

1. (はまがた)
(はまがた)
2. 米崎町
3. お茶会
(はまがた)

1. 小僧の会
・米崎町野沢
・そば栽培
・そば打ち
・そば会
・男性リタイヤ組

1. 夜通の口定例会
2. 米崎町夜通の口
3. 第3日曜日
19:00~
4. 情報交換
地域住民情報

1. 米崎町
2. 米崎町
3. 米崎町

1. 朝日あした家
2. 米崎町
3. サロン活動
4. いそいそ百歳体操
認知症カフェ
手芸・園芸

・太極拳クラブ
・米崎コミセン
・太極拳
・毎週水
19-21時

1. 米崎ダンス
2. 米崎コミセン
3. ダンス
4. 地域のなか
お茶会など

1. マヤサロン
2. 米崎町
3. 母子
4. 米崎町

1 お茶の会
2 米崎小学校
仮設
3. 毎日
4 お茶の会

1. 米崎サロン
2. 米崎町
3. 太極拳
4. 毎週水曜日

1 高田病院
2 米崎
3 月-金
4 自然発生的
はまがた

1 子育て支援センター
きらりんキッズ
(出張)
2 米崎町(出張)
3. 母子
4. 米崎町

1. 米崎町
2. 米崎町
3. 米崎町
4. 米崎町

アップルガール米崎
商工婦人部有志
幸也音頭中心

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会
・米崎10日選別会

小友町

1. マジック会 ⑬
2. モビリア
3. 月2回 日
4. マジック

オチンガーベーン
⑧ ローズ 飛脚
高次さん
お花とお度で
つながる様
90代のおばあさん

の男の子教室
② 小友町 ①
料理教室
(早稲)

・4日間コース
・小友町
・合衆22号の
港子コース
(早稲 667)

・料理教室
・小友 ⑨
・母会(不定期)
・料理

1. 小友町モビリア
2. 小友町モビリア
3. 母子
4. 小友町モビリア

1. モビリアクラブ
2. モビリア内国語
3. 月2回 日
4. 料理

1. お茶、二の会
2. 小友町の会
3. 地区住民
4. お茶、二の会

1. 百歳体操
2. 西下公民館
3. 自主グループ
4. 百歳体操

1. 健康講座
2. 小友町
3. 講座
4. 小友町

1. ジミエ
2. 柳沢団地
3. 月1回
4. ジミエ

1. 鳥羽医院
2. 小友
3. 日一
4. 自然

1. 鳥羽医院
2. 小友
3. 日一
4. 自然

小友町会
小友町の会
小友町の会
小友町の会
小友町の会

陸前高田市未来図会議Map
表示回数 51 回

すべての変更が Googleドライブに保存されました

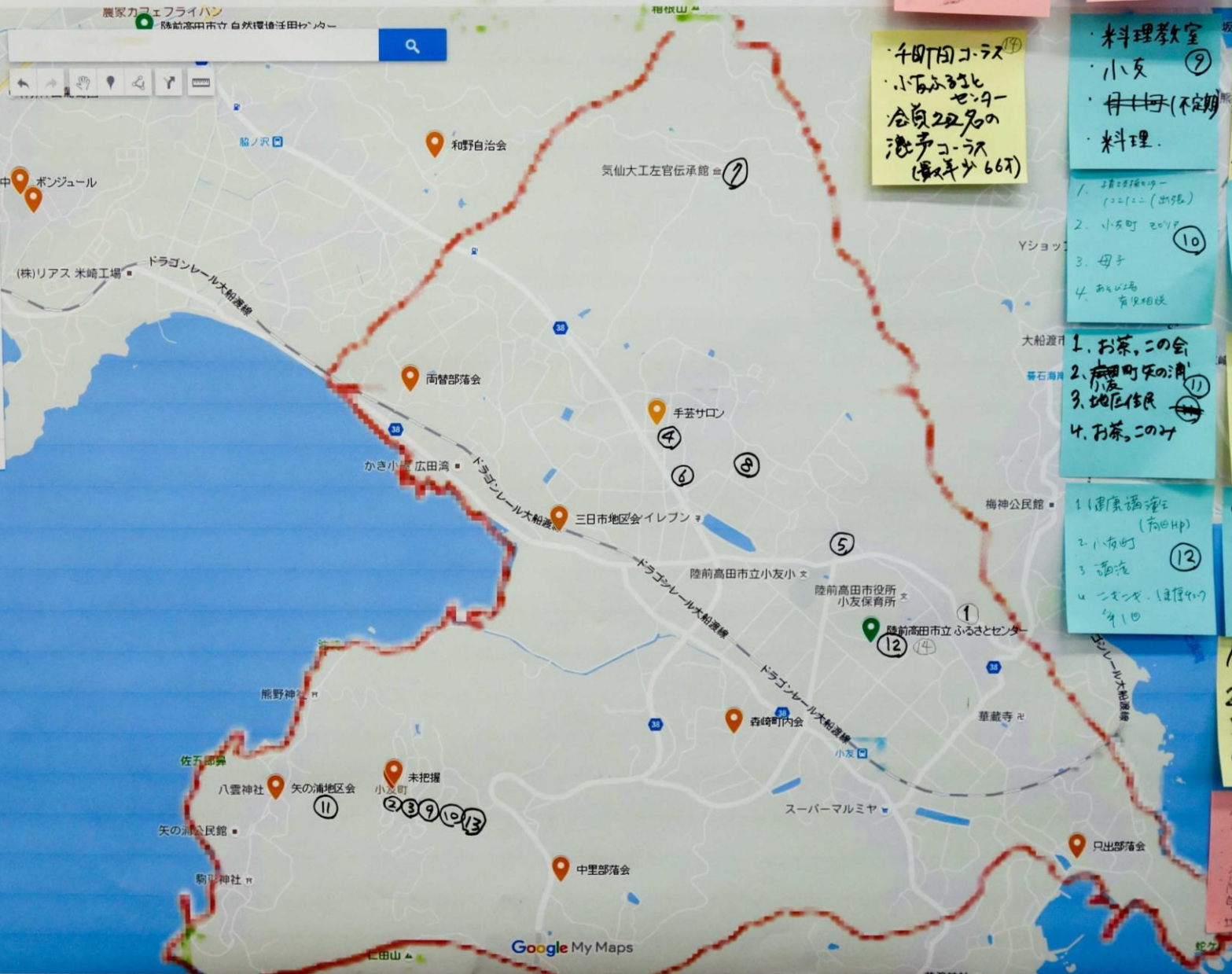
レイヤを追加 共有 プレビュー

陸前高田Map.csv

スタイル特徴

- 地区公民館 (43)
- コミュニティセンター (10)
- サロン (5)
- グランドゴルフ (2)
- ノルディックウォーキング (1)
- 手芸 (1)
- 精米 (1)
- 親子の広場 (1)
- 認知症カフェ (1)

基本地図



- 地区公民館 (43)
- コミュニティセンター (10)
- サロン (5)
- グランドゴルフ (2)
- ノルディックウォーキング (1)
- 手芸 (1)
- 精米 (1)
- 親子の広場 (1)
- 認知症カフェ (1)

広田町

黒崎温泉
広田町
温泉
温泉
温泉

寿大学
広田町
月1回
説法もきく

1 広田診療所
2 広田
3 月・金
4 自然発生

1. 長洞元氣村
2. 広田町
3. 仮設住宅住民
4. イベント開催
VRプレイ

1. 子育て支援センター
2. 広田町 (101号)
3. 母子
4. 広田町
子育て支援

1. 大野の畑
2. 広田町大野の
共同農園
3. 女性
集まる
4. 不明? 女性
集まる

1. 山田地区
2. 広田町
3. セミナー会
4. 不登校Eメール 奥様
方から月1回必ず

1. 健康講座
(100人)
2. 広田町
3. 講座
4. セミナー
年1回

1. 民泊
2. 広田町
3. 大学生受け入れ
年間通して学校
家の不審感解消

1 子育て
2 広田
3 学童
4

広田地区
子育て支援
村とつながる
広田町 村とつながる
ひろしま 果敢
30代スリ

次回(平成28年度第7回)未来図会議予定

◆日時

平成28年10月14日(金)13:30~15:30

◆メインテーマ(仮) ※出張未来図会議

栃ヶ沢団地の「未来」について

はまってけらいん、かだってけらいん

◆会場: 栃ヶ沢災害復興公営住宅 集会室

◆次々回(平成28年度第8回)

平成28年11月11日(金)13:30~15:30

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議(月1回)の予定

○日程(予定)

H28年: 10/14(金)、11/11(金)、12/16(金)

H29年: 1/20(金)、2/17(金)、3/17(金)

※3/17(金)会場変更: 陸前高田市コミュニティホール

○年間テーマ

私から始める他人(ひと)ごと意識の解消

～ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりの実践～

「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践、市民・他分野機関との協働、未来図(計画)策定、居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議月別テーマ予定

・11/11(金)第72回

(仮)子育て世代が必要としている支援、切れ目のない妊産婦・乳幼児への支援とは ～子ども・子育て世代への合理的配慮って?～

・12/16(金)第73回

(仮)エンド・オブ・ライフケアと地域コミュニティ～地域でその人らしく最期を迎えるために～

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

陸前高田市保健医療福祉未来図会議
参加希望申し込みサイト

未来図会議への参加をご希望される方はこちらから申し込んでください。

*必須

氏名*

メールアドレス*

お困りごと
ありませんか？

陸前高田市
復興サポートステーション



陸前高田市復興サポートステーションでは、今も全国からボランティアを受け入れ、様々なボランティア活動を行っています。お困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

詳しいご相談・ご依頼はこちらまで

☎ 0192-47-4977

(受付時間：水～日曜日 午前9時～午後5時)

陸前高田市復興サポートステーション

住所：陸前高田市米崎町字中島108-2

今月の
ポイント

- 人をつなぐのは「知識」や「技術」ではなく「姿勢」
- 「信頼＋ネットワーク＋お互い様」を常に意識できるか
- 健康づくりを通じた地域づくりの基盤となるソーシャル・キャピタル醸成事業という考え方



佐々木亮平
(ささき・りょうへい)

岩手医科大学
衛生学公衆衛生学講座
●連絡先：〒028-3694
岩手県紫波郡矢巾町西徳田 2-1-1
19651-5111 (内線 5775)



岩室紳也
(いわむろ・しんや)

ヘルスプロモーション推進センター
(オフィスいわむろ)

●連絡先：
<http://iwamuro.jp>

第2回

人と人をつなげようとする「姿勢」が重要

自主グループ化とソーシャル・キャピタル醸成事業の違い

陸前高田市の健康運動サークル「たかた☆ハッピートゥエーヴー」(会員30名、平均年齢68歳、以下ハッピー)が今年の「希望郷いわて国体」デモンストレーションスポーツにおけるエアロビクス競技で国体特別賞を受賞しました(図)。同サークルは、東日本大震災前に保健推進員の自主グループとして結成されて以来、市内を中心に玄米ニギニギ体操を手段として活動을續けて

きたのです。

ハッピー誕生までのプロセスは、まさしくソーシャル・キャピタル醸成事業そのものでした。こう書くところソーシャル・キャピタル醸成事業Ⅱ自主グループ化と勘違いされる人がいるかもしれませんが、それはほんでもない誤解です。その理由は後で述べます。今回は、行政側の戦略的な仕掛けに加え、自分たちも幾多の困難とぶつかり、乗り越えられてきたハッピーさんたちの活動の軌跡からソーシャル・キャピタル醸成事業について考えていきたいと思います。

ソーシャル・キャピタル醸成事業に求められる「信頼＋ネットワーク＋お互い様」

保健推進員活動は全国的な制度としてあり、どの自治体でも事業として実施しなければなりません。しかし、「今年は何をしよう」「何を一緒にしてらおう」と考え、事業を「こなす脳」になっていないでしょうか。同市でも東日本大震災の数年前までは、積極的な活動は展開できていなかったのが現状でした。ではなぜその後、自主

グループの設立にまで至ったのか。当時担当だった佐々木自身の関わりも含めて紐解いていきたいと思います(表)。

とにかく「信頼」を「つなぐ」ことから

ソーシャル・キャピタル醸成事業で一番大事なことは、きちんとした理念に基づく取り組みをすることです。震災前、保健推進員の研修会を開くに当たって、佐々木は

図 デモンストレーションスポーツ国体特別賞受賞記念写真



その場を人と人、住民同士が出会う機会であると自分に言い聞かせ続けました。まずは町別に交流を深めながら、人を知り、仲間がいることで「信頼」を育み、丁寧な「ネットワーク」づくりを通して一緒にできるかもしれないという雰囲気をつくれるよう、根気よく仕掛け続けました。次はどうしたらよいのか？ そのためには次回この時期に集まろう……と話し合い、その都度「何のために」を確認し続けました。気がつけば前年度までの10倍を超える話し合いの機会を持つことになりました。

2007(平成19)年の保健推進員代表者との第1回打ち合わせでは、「市民自らが主体的に取り組む健康づくりの推進」という目標を掲げるだけでなく、これを進めていく上での課題も具体的に挙げました。このときの次第には、通常の健康教室との兼ね合いや行政区間の温度差、2年任期という時間的制約とその後の継続性、事業を通じての評価指標と最終的なゴールをどう設定するのかというところまで明記し、事業を手段として健康づくりをどう推し進めていくのか、協議を重ねていきました。これをその後も繰り返し確認し続けたことで、一人一人の中で手段と目的が明確に

出会うこと、話すこと、元氣も「お互い様」に

なっていく、後に震災直後の活動を展開する上でも「体操は手段、体操をする目的は一人一人が顔を合わせる」と言い切る活動の基盤につながりました。

09(平成21)年に保健推進員の集まりが自主グループに移行してからは、県立高田病院院長の石木幹人先生(当時)をはじめ病院の方々が地域で行っていた健康講演会とのタイアップを仕掛けたことで、活動を続けていく上での大きな自信、力につながりました。医療機関にとって市民と一緒に活動することで地域への浸透度が確実に上がる一方で、住民も先生方と一緒に地域に出ることで、健康づくりの一翼を担っているという意識がより強固なものになったのに加え、それまで以上に、地域の人と出会い、話すことでお互いが元氣になり、このような場があることでやりがいや生きがいを実感できるといふ、当初の活動目的を思い起こすことができました。被災後も県立高田病院とハッピーの皆さんが被災前と変わらず市内を一緒に歩き、地域の元氣を取り戻していくというプロセスを目の当たり



表 陸前高田市における保健推進員としての活動状況と自主グループ後の活動状況（概略）

陸前高田市保健推進員			健康運動サークル たかた☆ハッピー・ウェーブ！		ソーシャル・キャピタル （信頼・お互い様・ネットワー ク）醸成のポイント 〔工夫したこと 失敗したこと つらいこと〕
保健推進員 活動	H19 年度 【2007】	H20 年度 【2008】	自主グループ 活動	H21 年度 【2009】	
研修会	4 回 (251 名)	6 回 (401 名)	定例会・練習	23 回 (794 名)	・既存事業を手段に ・まず会う ・町別交流 ・仕掛け続ける根気
話し合い	22 回 (518 名)	28 回 (967 名)	県立高田病院 健康講演会	11 回 (523 名)	・月 1 ～ 2 回顔を合わせる ・本音で語り合う ・何のためにを共有し続ける ・他機関からの後押しで自信
ステージ 発表	3 回 (1,900 名)	6 回 (1,956 名)	ステージ発表	11 回 (4,075 名)	・共通目標で団結力向上 ・実施後の自己肯定感のアップ ・自己実現、楽しさの経験 ・準備と仕掛けの調整
市と協働の 教室	56 回 (1,842 名)	67 回 (1,810 名)	市と協働の 教室	14 回 (448 名)	・既存事業と連携、橋渡し ・やらなければならない事 業から、やりたい事業へ
独自の教室	124 回 (2,788 名)	194 回 (3,564 名)	独自の教室	17 回 (272 名)	・つながりで信頼感アップ ・自身の役割、やりがい発見 ・予算がなくてもお互い様
延回数・ 人数	183 回 (延 6,530 名)	267 回 (延 7,330 名)	延回数・人数	76 回※ (延 6,112 名)	※ H21 年度は自主グループ だけの実績で、別途保健推 進員も活動している

にし、とても心強く感じました。

住民主体の健康づくり活動を進めるのが
難しいのは、計画や事業、予算を持つてい

る行政の担当部署が住民と協働し、住民に
「させる」のではなく、「お互い様」の気持
ちで進めていくことができずにいるからで

がいます。しかしこれまでは、人
に依存した事業の組み立ては普遍化できな
いとして、評価せず切り捨ててこなかった
でしょうか。しかし、「信頼」「お互い様」
「ネットワーク」という視点で考えると、「誰
がキーパーソンか」が問題なのではなく、
醸成されたソーシャル・キャピタルがキー
パーソンを上手に使っていると理解すれば
いいのです。

ひとたびソーシャル・キャピタルが醸成
されると、いろんな場面で生きてきます。

震災を機にハッピーは解散の危機に直面
しました。しかし、それまでの絆（きずな
十ほだし）があつたからこそ、佐々木は被
災 16 日目に体操に必要な道具セットを代表
の松野サカエさんへ届け、体操を手段にあ
の時期を乗り切ることができました³⁾。保
健推進員時代から指導されていた健康運動
指導士の藤野恵美先生が各避難所を歩きな
がら、住民の皆さんの生活リズムをつくつ
たり、石木先生が玄米ニギニギ体操を市内
で実践していこうと後押ししてくれたり、同
体操考案者の故鈴木正成先生をはじめ全国
の皆さんが支えてくれたことで、ハッピー
さんたちは自分たちにできることを続けよ
うと決断するに至りました。

震災後、専門的な支援チームが少しずつ
撤退していく中、地元ハッピーさんだか
らこそそのつよみ、よさを生かし⁴⁾、専門職
ではないからこそ言える（癒える）一言で、
住民だけではなく、実践者であるハッピー
さん自身の癒やしや元気にもつながってい
ました。佐々木や岩室は、定期的にハッピー
定例会に出席し、ハッピーさんの活動がい
かに地域の健康を支え、復興のための力に
なっているか、ソーシャル・キャピタルの
醸成を担っているかを専門的な、市外部の
立場から語り、応援し続けています。

格差を克服するための ソーシャル・キャピタル

震災後は、震災前よりも経済的な格差、
健康面での格差が少しずつ顕著になってき
ました。これはハッピーさんたちも例外で
はありませんでした。ですが、体操や集ま
る場を通じて、お互いにすぐには解消でき
ない格差と向き合いながら、正しい答えや
即効性のある回答を出そうとするのではな
く、それぞれの幸せや生活を分かり合おう
とし、実践を続けておられます⁵⁾。

ソーシャル・キャピタルが醸成されるこ
とで、当初は予期し得なかった効果が生ま

はないでしょうか。住民は何ができるの
か、行政としてできることは何なのか、限
られた予算と時間の中でお互い様の気持
ちをベースに繰り返しやりとりを積み重ね
ることで「信頼」が生まれ、元気も含めた「お
互い様」が本当のものになっていきます。
これからの事業担当者はソーシャル・キャ
ピタル醸成事業という「脳」を常に意識し
ながら、ノルマとしての健康教室事業では
なく、住民が楽しいと感じ、元気になる
ような事業を自然な流れの中で展開できる
よう、住民と丁寧に向き合い、関わり続け
ることが求められています。

担当を離れても切れないの がソーシャル・キャピタル

市民活動が円滑に継続されるためにはさ
まざまな支援が必要です。ハッピーさんの
場合は基本体操のDVD制作など、折に付
けて「できる人が、できることを」支援す
る必要が生まれ、担当だけで対応できない
ことについて、2010（平成22）年に佐々
木が担当から外れた後も、支援をし続けま
した。皆さんの周りでも地域づくり、ソー
シャル・キャピタル醸成事業が成功した事
例を見ると、間違いなくキーパーソン

れます。大事なことは、日常のどんな事業
の中にもソーシャル・キャピタル醸成事業
は存在していることを意識し、仕掛け続け
ることです。そのことが健康づくりを通じ
た地域づくりにつながり、いまある格差を
根本的に解消できずとも、向き合い続ける
中で克服していく効果や効用が、気が付け
ば後から付いてくるものと信じています。
このことをいまでもハッピーさんの姿、姿勢
から学び続けています。

読者の皆さんの近くにも、きっとそれぞ
れのハッピーさんがおられるはずです。ぜ
ひ、一緒につながり続けていきましょ

文 献

- 1) 佐々木亮平, 岩室紳也. 隔月連載 東日本大震災で求め
られている公衆衛生活動とは 少しずつ見えてきたボ
ビュレーションアプローチの成果 第 6 回. 月刊地域
保健. 2015, vol.46, no.2, p.47-53.
- 2) 佐々木亮平. 「復旧」ではなく「復興」へ ～復興へ向
かう陸前高田市の今・第五報～. 月刊地域保
健. 2011, vol.42, no.9, p.54-61.
- 3) 佐々木亮平, 岩室紳也. 災害を支える公衆衛生ネット
ワーク 東日本大震災からの復旧、復興に学ぶ・9 こ
ころのケアとは ボビュレーションアプローチの視点
から. 月刊公衆衛生. 2012, vol.76, no.12, p.61-66.
- 4) 佐々木亮平. 専門支援チーム撤退がもたらす新たな力
～復興へ向かう陸前高田市の今・第七報～. 月刊地域
保健. 2011, vol.42, no.11, p.60-67.
- 5) 佐々木亮平, 岩室紳也. 未来図を描く公衆衛生活動 in
陸前高田③ 新たに生まれている「格差」と向き合う
ために. 月刊公衆衛生.
2013, vol.77, no.12, p.1001-1005.

**平成28年度 第5回（震災後第69回）
陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録**

テーマ：「NPOのつよみを活かした地域づくり」

日 時：平成28年8月19日(金) 13:30～15:30

場 所：陸前高田市役所 4号棟第6会議室

参 加：49名 15団体

資 料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

1. 挨拶

菅野民生部長：

陸前高田は「ノーマライゼーションという言葉のいないまち」を地域課題としているが、地域的なコミュニティのあり方と地域横断的なNPOのたて糸、よこ糸がうまく組み合わせたり、未来の陸前高田と一緒に創造する取り組みができればと思っている。きょうは皆さんの活発な議論の中で、その方向性が見出せればと思うので、よろしくお願いいたします。

2 内容

(1) 未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告（話題提供）

報告 NPOのつよみを活かすとは？ ～知ってつながるNPO～

・陸前高田まちづくり協働センター センター長 三浦まり江氏

報告 地域の実情に応じた地域支援事業の展開 ～ある一例として～

・陸前高田市 民生部保健課 包括支援係長 佐藤咲恵

(3) グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

・テーマ：NPOの力、市民の力、行政の力…が、どうするとつながれますか

・地域、NPO、関係機関、専門機関、行政等それぞれのつよみを活かしながら、人財の再発見と育成を積み重ね、具体的につながるために…

(1) 未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

(陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏)

未来図会議が目指すことについて簡単に話をしたい。熊本県の蘇陽町は「寝たきりになっても花見ができるまちづくり」ということを掲げた。何をを目指すのかというと、たとえ寝た

きりになっても楽しさがある、生きがいがある、安心感がある。こういうことが大事ではないかということである。

健康づくりの考え方も随分変わり、昔は病気にならないように保健師や栄養士が一生懸命指導した。これを否定するつもりはないが、これからは幸せや元気づくりを目指していかなければいけない。これがヘルスプロモーションの考え方である。QOL(生活の質)の向上など、一人で実現するのではなく、自分ができること、ともにできること、そしてネットワークづくりに向けた働きを行政が仕掛け続けることが、この未来図会議だと思っている。

国も健康日本 21(第2次)の中で「社会に参加することで健康になろう」と言っている。そのキーワードの一つが「ソーシャル・キャピタル」、日本語に訳すと「地域のつながりの強化」である。このソーシャル・キャピタルは、信頼・ネットワーク・お互いさまの3つが地域にあれば、人は健康的な行動をとるようになり、自殺も減る。それ以外に、まちおこしや防犯・治安、就労にも影響してくることがわかっている。

では、そのためには何が必要なのかというと、「協働」つまり一緒に働こうということである。協働の効果は、①行政の効率化の促進。②参加ニーズの高まり。自己実現、市民の満足度を高める参加領域の拡大、市民活動や地域づくり。③地域の実情に即したまちづくり。この3つが協働を進める上で非常に大事である。何が必要とされているのか、何をすべきか考えながら政策をつくっていく必要性が強調されている。

従来は、税金で行政にお金を納めれば行政サービスが対価として返る。それに対して、これからは市民や地域の役割が大きくなっていく。協働のまちづくりを進める必要がある。

では、市民・地域の中にどんな人たちがいるのかというと、陸前高田でもともと大事にされてきた地縁団体がある。また、社協や個人、NPOがうまくつながっていくことが、健康づくりでは非常に重要である。これからはNPOとの協働が問われるということで、その視点で三浦さん・佐藤咲恵さんの話を聞かせていただきたい。

(2) 報告「NPOのつよみを活かすとは? ～知ってつながるNPO～」

(陸前高田まちづくり協働センター センター長 三浦まり江氏)

私たちは、震災の1年後(2012年)から地域づくりと市民活動の支援ということで、まちづくり協働センターを運営している。きょうは皆さんに「NPOとはどういうものなのか」「地域や住民とどうつながっているのか」を紹介したい。

NPOとは、市民が地域にあるいろいろな課題に対して、「何とかしよう」「より良くしよう」と自発的・主体的に取り組み、活動している非営利団体のことである。具体的にいうと、「子育てで悩んでいるが、相談するところがない」「悩みを分かち合えるところがない」「高齢者が元気がない」「災害公営住宅に引っ越したが、最近様子を見ない」など、困り事や課題にまず気づくということがスタートになる。

そこから、「どうにかしたい、何とかしたい」と思ったときに、例えば畑づくりをやろうとアイデアを考える。でも一人ではなかなかできないので、一緒にやる人を探し共感してくれる仲間ができて、その仲間とつながる。これが2つ目のステップである。

最後に、「よし、では一緒にやってみよう」「畑づくりでみんなを元気にしよう」「健康なま

ちにしよう」という目的を持って一緒に活動する。この活動が市民活動のスタートになる。

NPOの資金源は4つに分けられる。1番「会費・寄附金」。会費は、NPO団体の会費で年間幾らと決められており、寄附金は、小口や企業からいただけるものである。2番「事業収入」。これは自分たちで事業をして、その対価としてお金をいただくものである。3番「補助金・助成金」。震災後は、ここに頼っている団体が非常に多い。4番「受託事業」。これは行政から事業受託をして受け取るお金である。この4種類だが、例えば3番の「補助金・助成金」だけに頼っていると、来年はないかもしれないこともあるので、1番と3番、1番と2番というように、いろいろ組み合わせて自分たちの活動費を獲得している。

私たちNPOが一番大切にしているのは、団体の目的達成である。地域にある課題を解決して地域がよりよくなり、困っている人が少なくなるという社会や地域の実現を目指して活動している。市内では震災前から比べると法人格のあるNPOだけを数えても1団体から、約20団体まで活動団体が増えており、町別に見ても多くの団体が活動を続けている。ただし、震災から時間が経つに連れて撤退している団体もあり（当初からの時限団体もある）、現在はコミュニティづくりに関する活動内容が多くなってきている。

具体的なNPO法人の紹介をしたい。①小友町の「陸前たがだ八起プロジェクト」、②震災前から高田町に活動拠点のある「きらりんきっず」、③全町を対象としている「陸前高田市復興支援連絡会」である。②以外は震災後の応急仮設住宅での活動から始まっているが、特徴は仮設住宅を出られた後も行き先々の状況にかかわらず、人と人をつなぎ続ける関わりを継続していることにある。②も震災前の人も現在の人もつなげる場を提供し続けており、行政のように根拠事業目的の縛り等でこぼれがちな部分を相互に補いながら誰にとっても暮らしやすい、まさにノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりにつながる活動を続けている。

NPOのつよみは、基本的には住民の皆さんや地域の声が活動の開始につながるので、「現場の声を拾う」ということが1つとしてある。2つ目に「専門性が高い」。いろいろな分野に特化した活動をしているので、その分野において専門性が必然的に高くなる。3つ目は「公益性が高い」。利益よりも、困っている方の悩み事を優先して解決するということである。4つ目として、「独自のネットワークを持っている」。同じ分野で活動している団体同士や市内外の専門家、団体とつながっている。

では、個人がNPOとどうつながればいいのか。広報紙や会報を見る、イベントに参加する、団体のスタッフと顔見知りになるなどあるが、陸前高田まちづくり協働センターはNPOの窓口になっているので、当センターに一度ご相談いただければと思う。

（2）報告「地域の実情に応じた地域支援事業の展開 ～ある一例として～」

（陸前高田市 民生部保健課 包括支援係長 佐藤咲恵）

介護保険の制度が変わり、陸前高田市はことしの4月から新総合事業に移行している。移行したといっても新たなサービスをつくったわけではないので、具体的な面では今までと変わっていない。今年度、新総合事業を進めるからには、より一層皆さんの暮らしに合った制度にしていきたいと考えている。

今まで、地域包括ケアシステムは全国一律だったが、これからは地域の実情に応じたものが求められている。その地域の実情とは何かというと、「住民同士のつながり」「人口構成、高齢化の進展状況」「社会資源の有無」がある。新総合事業を推進していくためには、何といっても高齢者の社会参加、地域住民同士のつながりが欠かせない。社会参加のためには先ほどのNPOの活動とマッチングする必要もあると思っている。

きょうは総合事業の構成として、「訪問型サービス」「通所型サービス」「生活支援サービス」を紹介する。

まず「訪問型サービス」。今までは全国一律にヘルパーが家庭訪問をして、身体介護や生活援助をしてきた。現行の訪問介護制度はヘルパーの資格を持っていることが基本で、保険を使って予防給付という基準であったが、A B C Dとサービス種別がふえ、Aは訪問介護を少し緩和した基準によるサービスで、ヘルパーの資格がなくても職員が対応できる。

次に「通所型サービス」。今までの通所介護は保険内の介護だが、地域支援事業はA B Cと分かれており、通所型Aは緩和した基準によるサービスで、ミニデイサービス・運動・レクリエーション等を行い、主に雇用労働者とボランティアで構成されている。

そして「生活支援サービス」。多様な生活支援ということで、例えば、ごみ出し・洗濯物の取り込み・食器洗い・配食・見守り・安否確認などがある。これらは、研修を受けたボランティアが高齢者と生活行為を一緒に行うことで自立支援を促すことになっている。

以上は、未来図会議で提唱されている「はまってけらいん、かだつてけらいん運動」だが、大切なのは居場所づくりやコミュニティの形成である。一つの事例として、新潟市地域包括ケアモデルハウス「実家の茶の間・紫竹」がある。家賃と光熱費は市が負担し、週に2回（月・水）、参加費 300 円・昼食代（希望者）300 円で利用できる。この目的は、人と人、人と社会のつながりの場づくりで、子供からお年寄りまで、障がいの有無を問わず、気楽にいられる場をつくり、助け合える地域づくりにつなげることである。

方針は、赤ちゃんから高齢者まで地域の方たちに茶の間として集まってほしい。参加者は自由に好きなことをしてもよいと気づき、やりたいことをしてもらおう。そのことが誰かの役に立ったと感じてほしい。それがお互いさまの心ということで運営している。

これからの通い場、居場所づくりのためには、例えば「何となく自分たちで集まっているが、もう少し内容を工夫したい。大切なことは、地域の居場所づくりに向けて、立場を越えて一緒にはまかだし続けることである。現在活動しているが、運営費や人材不足などで行き詰まり感があり、今後も継続できるか心配だ」という困り事があれば、NPOや市役所に相談してはどうか。そうすることで、「NPOからの助言や支援をもらう」「地域支援事業を利用して、継続できる活動にする」「どのように実現していくか、地域や行政・社協・NPOなどが一体となって具体的な話をしていく」ことができる。苦痛を感じながらやるのではなく、みずからが楽しんで心地よいグループを気負わずに始めてみてはどうか。

復興支援連絡会 佐藤氏：

通所型サービスでA B Cとあるが、実情に合ったA B Cを市として目指しているのか。また、通所介護をする事業所を持っているところが余りないと思うが、市としての対応は。

佐藤包括支援係長：

要介護5から要支援1まで同じ曜日・場所で過ごしている。要支援1、2の人たちの受け入れ先や、支援認定されない虚弱な方々も集いの場に誘って、ほかの方々の刺激を受けて元気になり、集いの場を卒業していくことを市として目指している。できれば町に1つくらいずつは事業所が欲しいと思っている。

復興支援連絡会 佐藤氏：

事業所の件は、市でも空き家バンクの話が出た。未来図会議だけではなく、いろいろなところで話が出れば、空き家を利用してできるのではないかな。そのあたりを市として総体的にやってほしい。

(3) グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

テーマ：NPOの力、市民の力、行政の力…が、どうするとつながれますか

- ・地域、NPO、関係機関、専門機関、行政等それぞれのつよみを活かしながら、人財の再発見と育成を積み重ね、具体的につながるために…

4 グループ発表：伊藤主任保健師：

NPOとつながっていない理由は、「よくわかっていない」「情報が届いていない」「行政や社協がやるという人ごと意識」「なじみがない」「頼る必要がない」「困っていない」「困ることに気づいていない」などがあつた。

それを解消するためには、「魅力づくり、楽しく、心地よく、自分たちのやりたいことをやれるような活動を続けていくこと」「地域の人たちが地域の問題を理解していない、問題を共有していないので、共有できる場や情報交換の場を持とう」ということであつた。

また、はまかだスポットは点なので、それをつなぐ人が必要。スポットができれば、はまかだコーディネーターを創出して、いろいろな人をつなげると点が線になって面になるのではないかなという話があつた。

5 グループ発表：高橋保健師：

NPOとつながっていない理由は、「資料を見て、たくさんのNPO団体があることに気づいた。見たことない団体やどういう活動をしている団体なのか気づかされた」という意見が多かった。「自分たちが困らないと興味を持たない」「関心を向けないこともつながっていない理由になる」「直接的な被災者でないとNPOを利用してはいけないのではないかなという感覚もある」という意見が挙がった。

それを解消するためには、「情報一覧（商店街リスト）が欲しい」「ニーズに合ったNPOを選ぶように、チラシが欲しい」「自分たちで発信することの大切さや情報収集することもある」「ほかの団体の活動を理解すること」「異団体でも一緒に活動できたらいい」「誰とでも情報交換して地域づくりをみんなでやっていきたい」などの意見が挙がった。

6 グループ発表：千葉保健師：

感想から話をしたが、「NPOを初めて知った」「法人でしか知らなかった」「やりたいことをやれることがすてき」「やりがいを感じながら活動しているところがいい」「どんな活動をしているかを知らせると、NPO活動も住民に入っていける」という声が出た。

あとは、「中心人物がいなくなると継続できない」「若いマンパワーが不足しているので、ここを手助けしてくれると非常に助かる」という声があった。

1 グループ発表：佐藤保健師：

NPOとつながっていない理由は、「十分つながっているが、もっとつながりたい」「NPO同士で目的が違う」「NPOがどういったものなのか知られていない」「住民にとってNPOは特別な集団で、外部の方というイメージがある」「広報や情報にアクセスしづらい」「住民の心にとどまらないから、知られていない」という意見が出た。

それを解消するためには、「NPOの活動を身近なものに感じてもらえるように、わかりやすくかみ砕く努力をしないといけない」「地域の集まりに積極的に参加して、住民と会える機会を逃さないことが大事」「信頼できる人からの口コミが一番。1度でもかかわった人には広げてもらう」「フェイスブックは高齢者には難しいので、直接会って誘う、電話で一本釣りを狙って、つながっていくことがいいのではないか」という意見が出た。

2 グループ発表：社会福祉協議会 安田氏：

NPOとつながっていない理由は、「NPOが何をでき、何をしているのか知らなかった」「知っている方が立ち上げたNPOなら、情報が入りやすい」「リストなどがあっても、そこにアクセスするのは勇気が要る」「わからないことが次の行動につながるということに結びつかない」「専門性がどこまであるのか。落とし込むまで難しい」と感じた。

それを解決するためには、「それぞれが何をしているのかわかるように、顔と顔が見える“人”を知る」「気軽に話しやすい関係性」だと思った。

3 グループ発表：大和田介護予防指導員：

NPOとつながっていない理由として、「名前が横文字（NPO）で想像がつかない」「NPO法人という肩書きに敬遠する」「活動の内容を深く理解していない」「NPOの中にどのような人材がいて、どう活用していいのかがわかりにくい」「メンバーを知らないで、つながりにくい」「団体が多過ぎて複雑」「どのような人が参加しているのかわからないので、ちゅうちょしている」「一つのNPO法人が特定の地域や人物としかつながっていないイメージがある」「高齢者にネット等は難しい」「新たにつながりをつくること、持つことに意義を見出せない」「住民が依存している」「イベント開催がメインで、日常生活の中でつながるイメージが持ちにくい」などが出た。

それを解消するためには、「対象に合わせた広報活動」「代表者以外のNPOで活動をしている方の顔を知る」「地域住民との懇談の場があれば、ニーズの把握ができる」「身近なニ-

ズを知る」「地域行事をNPO法人が企画するのではなく、住民と一緒にやる」「イベントではない、日常的な活動のアピールを積極的にする」ということが出た。

地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：

ボランティアを活動的にやると「自分が元気になる」ということを、みんなで持ち帰り、周りにどんどんつないでいきたいと思った。

3 その他連絡・アナウンス

旭 俊臣氏：

私もこちらに来て6年目になるが、きょうもいい話を聞いたので元気を取り戻して頑張ろうと思った。今後は高齢者だけではなく、若い世代の小・中学生に高齢者や認知症の問題を取り上げた講演会をして、何かお役に立てればと思う。

りくカフェ 及川氏：

市の介護予防事業としてスマートクラブを開催している。9月28日から第3回目が始まるため、参加者を募集中である。8月20日、11時からもとカフェで気仙茶を楽しむ「気仙茶館」が開かれるので参加してほしい。

復興支援連絡会 佐藤氏：

先日、未来商店街でマグロの解体ショーを開催した。限定200人だったが全て売り切れ、後から来た人は間に合わなかった。その会場で、横田の仮設と気仙町の仮設にいた人が5年ぶりに出会ったということがあり、よかったと思う。今後もこのような活動を続けていきたい。

朝日のあたる家 長友氏：

「おはやがんす～」訂正が1カ所ある。8月21日（日曜日）に予定していた「タイコクラブのみんなで打楽器演奏を楽しもう！」が、講師の都合により8月27日の土曜日（時間は変更なし）に変更。15時から東北復興応援コンサートがあり一日中楽しめるので、お待ちしております。

大船渡保健所 小本氏：

脳卒中予防講演会を9月9日金曜日13時～15時30分、陸前高田市コミュニティホールで行う。健康に自信がある方、自信をなくしがちな方も参加してほしい。健康測定コーナーを設け、血管年齢測定と体組成測定の体の筋肉と脂肪のバランスを無料で測定するので、こちらでもご利用いただきたい。

佐藤包括支援係長：

地域の支え合い活動の意味と発掘の視点ということで、来週の金曜日に市役所第4号棟第4会議室で午前・午後2時間半ずつ、同じ内容で行う。申し込みはチラシの裏にあるファク

ス番号にファクスをしていただきたい。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

前回 68 回議事録の 5 ページの名前が間違っていた。青い帽子の家主は中野さんと書いていたが、村上さんの誤りだった。お詫びして訂正する。

◇次回：平成 28 年 9 月 16 日（金）

メインテーマ（仮）：通いの場づくり ～つながりを持ち続ける理由～②

…市内町別の「はまかだスポット」の確認、実際にプロット

町別人口・世帯構成、介護認定率等ともあわせて…

会場：市役所第 4 号棟第 6 会議室